

近代中国研究センター

彙報

8

東京都文京区本駒込二丁目六番二号  
東洋文庫  
近代中国研究委員会

1966



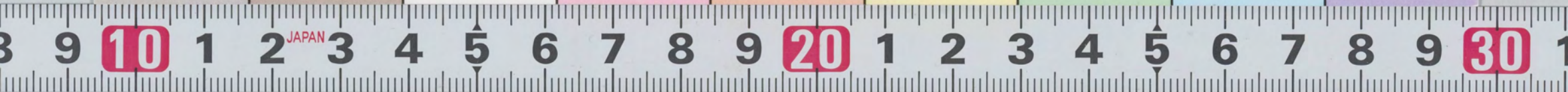
文庫





も く じ

イエズス会士中国書簡編目（目録）	1
思想問題に関係ある中国の定期刊行物（資料）	12
朱徳將軍年譜（資料）	22
中国の文化大革命に関する日本雑誌論説目録（目録）	26
新刊紹介	29
センター出版物目録	32





## 目 録

## イエズス会士中国書簡編目

矢 沢 利 彦

石田幹之助博士（「欧人の支那研究」や、後藤末雄博士（「支那文化と支那学の起源」）が、「耶蘇会士書簡集」と呼び、小林太市郎氏（「支那思想とフランス」）が「宗話及び異聞書簡集」と称しておられる、いわゆる *Lettres édifiantes et curieuses* の、中国に関する各書簡につき、それが「東洋文庫」に所蔵されている五種類の版本の何巻の何頁から何頁までに掲載されているかを照合し、かつそれぞれの書簡の内容を簡単に付記することによって、研究者の検索に役立てようとしたのが本編作製の動機である。

「教化的にして興味に富む書簡集」とでも訳すべき *Lettres édifiantes et curieuses* の全体に亘る書誌学的記述はべつの機会にゆずることにして、ここではただこの照合に用いた五種類の版本について Cordier: *Bibliotheca Sinica* を参考にして略述することにする。

## (A)

*Lettres édifiantes et curieuses ecrites des Misions Etrangères par quelques Missionnaires de la Compagnie de Jesus*

第1集 Paris, Nicolas Le Clerc, 1717. (「東洋文庫」所蔵本は1717年の刊行であるが Le Clerc から出た初版は1703年の出版であった。なおこの第1集はもともと1702年に *Lettres de quelques Missionnaires de la Compagnie de Jesus, ecrites de la Chine, & des Indes Orientales* という名でパリで刊行されたものを、同年 Jean Cusson 書店が *Lettres edifiantes et curieuses ecrites des Missions Etrangères par quelques Missionnaires de la Compagnie de Jesus* と名を変えて出し、それをさらに Le Clerc が 1703年に出版したものである。なお1707年にも同社から出ている。)

第2集 Paris, Nicoles Le Clerc, 1717. (「東洋文庫」所蔵本は、1717年の刊行であるが、Jean Cusson 本も、Le Clerc の初版もともに1703年に世に出た。Le Clerc の再版が1707年に出たむね Cordier には記され

ているが、1717年にも刊行されたとは見えていない。) 第3集 Paris, Jean Barbou, 1713. (Le Clerc の初版は1703)

第4集 Paris, Ibid., 1713. (Le Clerc の初版は1704)

第5集 Paris, Nicolas Le Clerc, 1724. (Le Clerc の初版は1705)

第6集 Paris, Ibid., 1723. (Le Clercの初版は1706)

第7集 Paris, Ibid., 1707. (初版)

第8集 Paris, Ibid., 1708. (初版)

第9集 Paris, Nicolas Le Clerc, et P. G. Le Mercier fils, 1730. (Le Clerc の初版は1711)

第10集 Paris, Ibid., 1732. (Jean Barbou の初版は1713)

第11集 Paris, Nicolas Le Clerc, 1715. (初版)

第12集 Paris, Mercier & Boudet et Marc Bordelet, 1741. (Le Clerc の初版は1717)

第13集 Paris, Nicolas Le Clerc., 1718.

第14集 Paris, Ibid., 1720.

第15集 Paris, Ibid., 1722.

第16集 Paris, Ibid., 1724.

第17集 Paris, Nicolas Le Clerc et P. G. Le Mercier fils, 1726.

第18集 Paris, Nicolas Le Clerc et P. G. Le Mercier, 1728.

第19集 Paris, Ibid., 1729.

第20集 Paris, Ibid., 1731.

第21集 Paris, Ibid., 1734.

第22集 Paris, Ibid., 1736.

第23集 Paris, Ibid., 1738.

第24集 Paris, Ibid., 1739.

第25集 Paris, Le Mercier & Boudet et Marc Bordelet

第26集 Paris, P. G. Le Mercier et Marc Bordelet, 1743.

第27集 Paris, les Frères Guerin, 1749.

第28集 Paris, H. L. Guerin & L. F. Delatour, 1758.



東洋文庫所蔵の原刊本は以上の28冊でおわっている。しかもこの28冊も初版のものは第7集(1707)、第8集(1708)の2冊と第13集から第28集までの16冊の計18冊で、あとの10冊は三版または再版のものである。これによって本セットがきわめて複雑な構成をなし、蒐集家の手によって苦心して集められたものであることが知られる。なお Cordier によると本書簡集は34巻まで続刊されたことになっている。

第29集 Paris, Ruault, 1773.

第30集 Ibid., 1773.

第31集 Paris, De Hansy, le jeune, 1774.

第32集 Paris, Ibid., 1774.

第33集 Paris で販売, Charles-Pierre Berton, 1776.

第34集 Paris で販売, Ibid., 1776.

わたしは第29集以下の上記6冊をまだ見る機会がないので、わたしの「編目」においては、この6冊に限り、それに掲載されている書簡が何頁から何頁に及んでいるかを確認することができなかった。ただ幸いにして(B)すなわち1780年 Paris, J. G. Merigot le jeune 版の書簡集の各巻末にはその巻に掲載されている各書簡が原刊本の何巻の何頁からはじまっているということを親切に記してあるので、それによって巻数と頁数を記しておいた。

なお後藤末雄氏(「支那文化と支那学の起源」昭和16年, 第一書房, pp. 196-197)も小林太市郎氏(「中国陶瓷見聞録」昭和26年, 全国書房 p. 9)もともに東洋文庫所蔵の原刊本に触れておられるが、一見34巻全部がそろっているかのような書きぶりをしておられる。そこでわたしの見た28巻本以外にフルセットのものがあるのかとも思い、東洋文庫のカード, モリソン文庫カタログなどを検索したけれどもそれを発見することができなかった。両氏が閲覧されたという原刊本はわたしの見たものと同じく28巻のものであったのではなからうか。

なおここで触れるのは必ずしも適当ではないと思うが、この書簡集にはじめは Gobien, のちには du Halde によって編纂され、後者は掲載した書簡に対して、時にかなり大幅な改竄や細工を加えたということである(小林太市郎「支那思想とフランス」pp. 79-84)。こういうことを知ると史料としてこの書簡集を使おうとするものは非常に不安な気持ちになるけれども、この改竄は主としていわゆる「典礼問題」に関してイエズス会の主張を守るという見地からなされたものだという事であるから、そういった点に関係のないものはまずもとの形に近いものとして使えるわけである。

## (B)

Lettres édifiantes et curieuses écrites des Missions étrangères. Nouvelle édition Paris, J. G. Merigot le jeune. in-12.

Tomes I-V, 1780 Mémoires du Levant

Tomes VI-IX, 1781 Mémoires d'Amerique

Tomes X-XV, 1781 Mémoires des Indes

Tomes XVI-XXIV, 1781 Mémoires de la Chine

Tomes XXV-XXVI, 1783 Mémoires des Indes et de la Chine

この新版は原刊本掲載の書簡を地域別に採録したものであって、利用者にははなはだ便利なものである。本版は比較的多数印刷されたものと見え、日本でも東洋文庫(図書番号O-1-C-7, O-2-C-29)には2セット所蔵されているほか、天理図書館(図書番号198. 2-イ118)も1セット所有し、筆者も神田の一書店で購入したものである。本版が地域別に書簡をまとめていることで、筆者がたまたまこの版をもっていたという便宜にとづき、この編目では本新版をもとにして、それに他の版を照合するという方法をとった。つぎに Mémoires de la Chine, Memoires des Indes et de la Chine の各巻について気がついたことを簡単に記しておこう。

Tome XVI, Mémoires de la Chine, 1781, pp. xxxvi+438

シナ篇とはいいながら、実際にシナからの報告は4通だけで、あとはトンキンからの通信である。

Tome XVII, 1781 Mémoires de la Chine, pp. 452

このうち Fontaney の2通の書簡は北京におけるフランスイエズス会ミッションの創始を語るものとしてとくに重要。

Tome XVIII, 1781 Mémoires de la Chine, pp. 480

このなかには江西景德鎮の陶業について記した有名な d'Entrecolles の書簡をはじめ、シナのユダヤ人について記した Gozani の書簡、その他康熙時代のキリスト教の状況を知るに必要な報告が集まっている。

Tome XIX, 1781 Mémoires de la China, pp. 516

前の3分の2はキリスト教の布教のことも含めて当時のシナに関する雑多な報告が収められ、後の3分の1は雍正即位後にはじまったキリスト教に対するきびしい迫害について記す。

Tome XX, 1781 Mémoires de la Chine, pp. 462

ほとんど全篇が雍正治下に行なわれた禁教に関する報告で占められている。



Tome XXI, 1781 Mémoires de la Chine, pp. 526

雑多な報告が採録されているが、このなかでとくに注意すべきは Contancin の2通の書簡で、いずれも京報の一部を翻訳し、それに独自の解説を加えたものである。私見によれば Contancin のこの文献はヨーロッパ・シナ学の成立に寄与するところが大きかったらしい。

Tome XXII, 1781 Mémoires de la Chine, pp. 532

雍正末—乾隆初のシナキリスト教事情、ならびに雑多な報告。

Tome XXIII, 1781 Mémoires de la Chine, pp. 619

乾隆治下のキリスト教。Gaubil の琉球諸島に対する報告は注目に価する。

Tome XXIV, 1781 Mémoires de la Chine, pp. 556

迫害下のキリスト教について。なおイエズス会がローマ教皇によって正式に廃止されたのは1773年であり、その悲報は翌年北京に達した。

Tome XXV, Mémoires des Indes et de la Chine, 1783, pp. ix+444

Tome XXVI, Mémoires des Indes et de la Chine, 1783, pp. 518

シナ天文学史はとくに有名。なお Dufrêne とあるのは正しくは Dufresse でパリ外国宣教会の宣教師である。

この新版は原刊本に含まれている中国関係の書簡ばかりでなく、後者には掲載されていないものをも採録していることは編目で明らかになるであろう。なお本セットの出版所は J. G. Merigot le jeune 書店であるが、編集人は Yves Mathurin Marie Querbeuf であった。図書目録によってはこのひとつの名で繰らないと出て来ない場合があるから注意すべきである(例えば, Catalogue of Special Books on Christian Missions Vol. I, II, Tenri Central Library)。

(C)

Lettres édifiantes et curieuses, écrites des missions étrangères. Nouvelle édition. Lyon, Vernarey et Et. Cabin et Cie, 1819, 14vol. in-8.

本版は(B)の26冊本をそのまま14冊にまとめたものすぎない。このセットも数多く現存するらしく、日本では東洋文庫(図書番号O-2-C-31)と天理図書館(図書番号198.2-510)にそれぞれ所蔵されている。中国に関する部分は Tome IX—Tome XIV である。

Tome IX, Mémoires de la Chine, pp. xxiv+540

Tome X, Mémoires de la Chine, pp. 536

Tome XI, Mémoires de la Chine, pp. 570

Tome XII, Mémoires de la Chine, pp. 563

Tome XIII, Mémoires de la Chine, pp. 534+xl

Tome XIV, Mémoires des Indes et de la Chine, pp. xlviii+583

(D)

Choix des Lettres édifiantes, écrites des Missions étrangères; avec des Additions, des Notes critiques, et des Observations pour la plus grande intelligence de ces Lettres; précédé D'un Tableau Géographique de la Chine, de sa Politique, des Sectes religieuses, de la Littérature, et de l'état actuel du Christianisme chez ce peuple; Par M. ..., ancien archidiacre et Vicaire-Général de Soissons. A Paris, Maradan, 1808-1809, 8vols. in-8.

本版には読物としての配慮は施されているけれども、収録された書簡はおおむね抜粋であるため史料価値には乏しい。東洋文庫の図書番号はO-2-C-57である。

Tome I, Missions de la Chine pp. cviii+400

Tome II, Missions de la Chine pp. lxxiv+451

Tome III, Missions de la Chine pp. 458

中国関係書簡が掲げられているのは以上の3巻であるが、Tome IIIには1781年以後の中国書簡も掲げられている点で特色がある。

(E)

Edifying and Curious Letters of some Missioners of the Society of Jesus, from Foreign Missions. vol. I, 1707. vol. II, 1709.

本書(東洋文庫図書番号O-2-C-27)の第1巻には de Premare 広東発, 1669年2月17日付, pp. 91-114 Bouvet 北京発, 1699年11月30日付, pp. 119-133 de Premare 温州発, 1700年11月1日付, pp. 134-144 Pelisson 広東発, 1700年12月9日付, pp. 32-50 de Tartre 広東発, 1701年12月17日付 pp. 176-223 de Chavagnac 韶州発, 1701年2月30日付, pp. 224-233 の各書簡の英訳が載っている。

1103  
1105 II 30  
1107 IS 30  
1107 JS 11  
1100 IS 0  
1100 II 1  
1088 II 30  
1088 S 11

日





日付	発信地	発信人	(B)		(A)		(C)		(D)		内容
			巻	頁	巻	頁	巻	頁	巻	頁	
1699. 2. 17	広東	de Premare de la Chaise	16	338—372	2	57—110	9	209—229			フランスからシナへの旅行, 上川島寄港, マカオならびに広東への到着。
1699. 11. 30	北京	Bouvet de la Chaise	16	372—392	2	119—150	9	229—241			フランスから広東への航海, 南京までの旅行。
1700. 11. 1	温州	de Premare le Gobien	16	392—408	2	151—174	9	241—250	2	82—84	シナの状態, 民衆の惨めさ, 赤ん坊遺棄。
1700. 12. 9	広東	Pelisson de la Chaise	16	408—434	1	69—111	9	251—266			シナおよびコチンシナの布教状況。
1701. 12. 17	広東	de Tartre 父	17	5—77	3	34—146	9	266—308			フランスから広東までの航海, 多くの危険に遭遇したこと。
1701. 12. 30	韶州	de Chavagnac le Gobien	17	78—90	3	147—167	9	308—316			宣教師にとって必要な資性と徳性について, 布教状況報告。
1702. 11. 26	南昌	Fouquet Duc de la Force	17	91—157	5	129—238	9	316—358			江西布教に関する総合的報告, 日本のキリシタンについて。
1703		Noel イエズス会総会長	17	160—183	6	68—106	9	359—373	2	84—88	宣教師たちの活動, かれらに対する康熙帝の好意から考えられる将来への期待(ラテン語よりの訳)。
1703. 2. 10	撫州	de Chavagnac le Gobien	17	184—206	9	322—358	9	374—387			信者たちの熱情, 布教の困難, シナの婦人と偶像について。
1703. 2. 15	舟山	de Fontaney de la Chaise	17	207—331	7	73—278	9	388—464	2	89—110	フランス・ミッシェンの創設, シナへの航海, 到着, 北京への旅行, 康熙帝の病氣, 初期フランス宣教師の活動。
1704. 1. 15	ロンドン	de Fontaney de la Chaise	17	332—450	8	51—243	9	464—537	2	110—114	他の宣教師たちのために果たした奉仕, 北京の教会, 長崎および日本について, 今後来華する宣教師に対する忠告。
1704. 8. 20	北京	Jartoux de Fontaney	18	5—30	9	376—417	10	1—17			皇城内に建てられたフランス・ミッシェンの新しい教会(北堂)。
1704. 11. 5	開封	Gozani Suarez	18	31—48	7	1—28	10	17—27	2	115—118	シナのユダヤ人について(ポルトガル語からの翻訳)。
			18	48—55	7	29—40	10	27—31			シナのユダヤ人に関する上記の書簡に対する編集者の補言。

現

を

答

い

置

い

思

芸

能

現

五

と

③

第

と

時

戦

か

中

に

人

に

国

と

四

国

と

中

に

人

に

国

と

四

国

と

中

に

人

に

国

と

四

国

と

中

に

人

に

国

と

四

国

と

中



1704. 11. 15	饒州	d'Entrecolles	18	56—66	9	304—321	10	31—38	de Broissia 神父の死と同神父への讃辞。
1705	北京	Marquis de Broissia Gerbillon	18	67—77	10	412—428	10	38—44	永定河と白河との間の冠水地区の地図作製を宣教師たちが命ぜられたこと、布教状況報告。
1706		Bouvet	18	77—83	10	388—397	10	44—48	キリストの王国をシナに及ぼすことを目的として作られた聖体信心会。
1707. 7. 17	饒州	d'Entrecolles インド・中国布教総代理	18	84—106 107—108	10 10	119—155 156—158	10 10	48—62 62—63	皇子允礽・允禩の失寵、布教状況報告。
1710. 7. 10	北京	Bouvet	18	115—122	10	377—387	10	64—68	北堂に下賜された康熙帝御筆の額「万有真元」以下三つの書の説明と訳。
1710	北京	Parennin	18	122—126	10	405—412	10	68—71	宗室(紅帶子)の一夫人である趙太々の入信とその死。
1711. 4. 12	北京	Jartoux インド・中国布教総代理	18	127—143	10	159—185	10	71—81	シナの新信者たちの熱烈な信心。
1712. 8. 27	饒州	d'Entrecolles インド・中国布教総代理	18	144—179	11	180—233	10	82—103	人参と呼ばれる植物に関する記述。朝鮮人参に関する正確な伝え。
1712. 9. 1	崇明島	Jacquemin インド・中国布教総代理	18	179—223	11	234—302	10	103—131	発信人の管理に任されている江西省の諸教会(景德鎮、饒州)の状態。早魃による不作。
1712. 9. 1	饒州	d'Entrecolles Orry	18	224—296	12	253—365	10	131—176	崇明島に関する記述、産物、住民、商業、風俗。製塩、稲作、綿花の栽培、造酒。
1714. 7. 26	福建省	Laureati Baron de Zea	18	296—341	29	25—	10	176—204	江西景德鎮における陶器の製造。小林太市郎「中国陶器見聞録」に記あり。
1715. 3. 27	北京	Parennin	18	341—352	14	431—448	10	204—211	シナの植物、とくに茶について。金属、動物、金魚、アモイの大僧院。イタリア語よりの訳。
1715. 5. 10	饒州	d'Entrecolles de Boissia	18	353—412	13	300—393	10	211—247	外科医として手腕のあった Rhodes 助修士の死とかれへの讃辞。
1715. 8.	九州	de Mailla de Colonia	18	413—467	14	1—85	10	247—280	江西布教の現状。景德鎮の陶工たちの生活。読書人の入信。
1716. 7. 1	南陽	Domenge	18	467—479	14	411—430	10	281—288	シナの戎克、澎湖諸島、台湾島。台湾島の住民、風俗。オランダ人やシナ人による占領。
1717. 6. 5	北京	de Mailla	19	5—72	14	86—190	10	289—330	南陽府に発生した迫害、布教事業の発展。
1717. 11. 2	北京		19	73—76	14	493—499	10	331—333	キリスト教の迫害、反教上奏文の上呈、この上奏文に対して降された康熙帝の諭旨。
1718	広東		19	77—79	16	373—377	10	333—335	麝香鹿、ならびに麝香について。 1月11日の皇太后の死、服喪。ある役人に対する皇帝の厳しい態度。



1719. 10. 14	無	錫	Porquet 兄	19	80—91	15	361—379	10	335—342	キリスト教事情についての報告。役人への贈物としてはなにかいばん適当か。
1720. 10. 19	北	京	d' Entrecolles	19	91—98	15	380—391	10	342—346	1720年に北京に発生した激しい地震。高貴の婦人の改宗。
1720. 10. 19	北	京	d' Entrecolles	19	98—164	15	83—182	10	347—388	北京で認められる悲惨な棄児の慣習、幼児洗礼の話。
1720. 11. 5	広	東	Cazier	19	165—168	16	368—373	10	388—390	パラオ諸島について。パラオにおける宣教師虐殺事件。
1721	北	京		19	168—173	16	378—385	10	390—393	ツァーの使節の来朝。康熙帝即位60年祭。皇太子問題。シナのイスラム教徒。
1722. 1. 25	景徳鎮		d' Entrecolles	19	173—203	16	318—367	10	393—412	景德鎮の陶業に関する1712年報告の補遺。小林上掲書に訳あり。
1722. 11. 1	広	東	Jacques Raphaelis	19	204—245	16	1—66	10	412—438	シナへの渡航と広東到着、シナ語学習の困難。
1722. 11. 4	広	東	Gaubil de Nemond	19	246—256	16	300—317	10	438—444	棄児、棄児収容施設、棄児への授洗。
1723. 5. 1	北	京	Parennin 科学学士院会員	19	257—299	17	344—408	10	444—470	満洲語について。皇長子と満洲で話をしたことで。ヨーロッパ語が満洲語より優っていることを説いたこと。
1723. 5. 1	北	京	Parennin 科学学士院会員	19	300—323	17	409—446	10	470—485	シナの特種な草根。とくにこの時まででヨーロッパによく知られていなかった大黃。
1724. 10. 16	北	京	de Mailla	19	324—406	17	163—284	10	486—536	福建省におけるキリスト教徒の迫害からはじまった全国的禁教。
1724. 8. 20	北	京	Parennin	19	406—514	17	1—162	11	1—68	宗室蘇努一族の入信。かれらへの弾圧。一族の右衛(山西省右玉県)への発遣。
1725. 7. 20	北	京	Parennin	20	5—64	18	33—121	11	68—104	蘇努一族の右衛および新堡子における生活。
1726. 8. 24	北	京	Parennin	20	65—106	18	248—311	11	104—129	蘇努一族に対する迫害の強化、諸公子の地方への分遣監禁。
1727. 9. 26	北	京	Parennin Duhalde	20	107—238	19	1—205	11	129—208	蘇努一族に対する棄教強要、諸公子の堅信。
1728. 9. 15	北	京	Parennin Duhalde	20	239—266	20	1—45	11	209—226	蘇努一族その後の状態。
1734. 10. 15	北	京	Parennin Duhalde	20	267—302	22	44—98	11	226—247	蘇努一族に対する迫害の緩和、釈放。



1736. 10. 22	北	京	Parennin Duhalde	20	303-371	23	1-197	11	248-289	2	260-276	乾隆帝の登極、蘇努一族の名誉回復。
1725. 12. 2	広	東	Contancin Souciet	20	371-394	18	429-463	11	308-321	2	260-276	雍正帝の善政。京報の性格、中国事情研究のためにもつ京報の意義。
1726. 7. 26	北	京	d' Entrecolles Duhalde	20	394-428	20	46-99	11	322-342			迫害下の教会。施療施薬を口実としての信者獲得、婦人の改宗。
1726. 5. 11	北	京	d' Entrecolles Duhalde	21	5-41	20	304-361	11	342-364	2	277-299	蘇努の第三子蘇爾金の信仰告白書。 イエズス会士によって編訳された漢文書籍。 シナで行なわれている種痘法、この方法はシナから裏海地方を経て東欧に伝ったのではな いか。
1727. 7. 7	北	京	d' Entrecolles Duhalde	21	42-55	20	281-303	11	365-373			シナの造花の技術について、懸心草の髓をけ ずった薄皮から造る。技術者の組合。
1727. 10. 8	北	京	Parennin Nyel	21	56-95	19	206-265	11	373-396			ポルトガル使節 Metello 来朝始末。
1727. 12. 15	広	東	Contancin Souciet	21	95-182	19	265-403	11	396-447			京報の解説、ならびに京報抄、皇后の選立、 隆科多への死刑求刑、その他。
1724			Premare	21	183-237	19	420-506	11	448-482			Renaudot の「ニイスラム教徒旅行者のイン ド、シナ旅行記」に対する批判。この書の不 正確性について。
1730. 2			le Couteux	21	237-294	22	99-188	11	482-517			禁圧下における湖広省のキリスト教事情、筆 者の湖広潜入記。
1730. 10. 19	広	東	Contancin Duhalde de Goville	21	295-383	22	189-324	11	517-569			統京報抄、土地の開墾奨励、官吏兵士の功績 評価の方法など。
			de Goville	21	384-401	22	325-350	12	1-11			典札問題に関して「シナにおける宗教の状態 に関する小論」の著者が筆者に対してなすリ つけた中傷に対する反論。
1730. 8. 11	北	京	Parennin de Mairan de Mailla Hervieu	21	401-456	23	442-519	12	12-45			上記「小論」の著者が筆者の反論に対して行 なった反答について。 中国人の科学的知識。
1731. 10. 10	北	京		22	5-25	21	184-216	12	88-100			禁圧下の北京の教会事情、趙老爺の投獄。





1732.12.11	マカオ	Porquet de Goville	22	25—63	21	217—280	12	100—124	2	368—379	広東省のキリスト教事情, 在省宣教師を強制的にマカオに移す。
1733.10.18	北京	de Mailla	22	64—90	22	1—43	12	124—140	2		マカオへ追放された宣教師たちを広東に戻す問題のいささつ。
1734.11.4	北京	d'Entrecolles Duhalde	22	91—126	22	425—480	12	141—163			シナ人の工芸上の種々の発見, 人工真珠, 破損した陶器をつぐ法, 鍊丹術。
1734.10.29	北京	Parennin	22	127—132			12	163—166			フランス・イエズス会士 Bousset, Foureau の来京。
1735.9.28	北京	Parennin de Mairan	22	132—192	24	1—91	12	167—204			中国民族・中国文字の起源。雍正帝の崩御。
1736.10.8	北京	d'Entrecolles Duhalde	22	193—245	24	357—436	12	204—237			シナの植物について。柿子, 茄子, 槐樹, 柳, 掃帚草, 樟脳, 鶏盲眼をなおす薬。
1740.9.20	北京	Parennin de Mairan	22	246—288	25	234—310	12	237—262	2	379—411	1738年のシナの教会事情。この年の迫害。シナの製鉄, シナ民族・エジプト民族同起源考。
1741.10.10	北京	Parennin Duhalde	22	289—344	26	1—85	12	263—297			満洲語で書かれた道徳書の翻訳。
		Chalier Verchere	22	344—384	26	86—145	12	297—322			
		Baborier 甥	22	385—401	26	145—171	12	322—332			Parennin の昇天とかれの略伝。
1741.10.29	北京	Gaubil Cairon	22	401—408	26	412—423	12	332—337			広東より江南への筆者の潜入記。
		Loppin Radominski de Neuviaille	22	409—414	26	423—432	12	337—341			北京の教会事情, 蘇努第十一子庫爾臣の妻の昇天。
		Brisson Robert	22	415—456	26	281—345	12	341—366	2	411—419	マカオまでの航海, 広東から湖南, 湖北への潜入記。
1741	湖広省	Brisson	22	457—474	28	356—	12	366—377	2	420—435	湖広省のキリスト教事情, Loppin の来援。
		Attiret d'Assaut du Gad	22	475—490	26	375—398	12	378—387			湖広省のキリスト教事情。
1743.11.1	北京	Foureau	22	490—528	27	1—61	12	387—412	2	436—441	北京の宮殿, 運河, 街路, 橋, 亭, 建築物, 絵画。
1745.8.22	北京	Benoist	23	5—21			12	413—422			河南省のキリスト教事情。
1746.11.2	北京	Benoist	23	21—30			12	423—428			福建省における新迫害の発生。北京の状況。
1746.11.2	北京	Benoist	23	30—39			12	428—434			湖広省で死亡した Saint-André 神父。







1767. 9. 1	広東	Bourgeois Ancemot	23	498—534	29	105—	13	155—176	広東への渡航, シナの神々と風習。
1767. 11. 16	北京	Benoist	23	534—547			13	176—184	乾隆帝, その庭園の宮城。
1769. 7. 17	河南	Papillon d'Auteroche	23	548—559			13	185—192	迫害の状況
1769		Lamathe de Brasseur	23	560—574			13	192—201	迫害, キリスト教に対する役人たちの憎悪。ミッシヨンのスタッフ。
1769. 10. 15	北京	Ventavon de Brasseur	23	575—611	29	211	13	201—223	シナ, トンキンにおけるキリスト教の迫害。
1770. 11. 1	北京付近	Bourgeois Ancemot	23	611—615	29	275—	13	223—226	北京の北方山岳地区における布教。
1769. 9. 15	海甸	Ventavon de Brasseur	24	5—56	31	212—	13	226—256	西藏, ならびに乾隆帝によって最近征服された準噶爾国について。
4. 16	広東	d' Ollières	24	56—100	31	296—	13	257—256	開封にあるユダヤ教会の会堂, シナにおけるユダヤ教の歴史。
1770. 8. 26	北京	d' Aubert	24	100—115	31	30—	13	284—294	シナへの渡航, トンキンでの迫害, 北京到着。
1771. 11. 3	北京	Benoit du Gad	24	116—135	30	115—	13	294—306	乾隆帝の宮廷におけるイエズス会士。中国語とその学習法。科挙。
1773?. 6. 11	北京	Cibot	24	151—221	32	161—	13	315—358	堅信者馬ジョゼフ, ならびにその家族。
1773. 9. 18	北京	D.	24	222—235	30	73—	13	358—366	馬ジョゼフの昇天。
1773. 11. 4	北京	Cibot	24	236—247	30		13		シナのキリスト教事情。
1773?	北京	Bourgeois	24	247—258	30	94—	13	374—381	北京におけるイエスの聖心の祝日の祭。
1773?	北京	Benoit	24	259—279	33	381—	13	381—393	四川省における迫害。満洲ミッシヨン。
1775	北京	Benoit	24	280—330	33	1—	13	394—424	皇帝, 宮廷, 科学。
1775. 10. 15	北京	Benoit	24	330—362	33	91—	13	425—445	皇帝との会話, 宮廷の祭。
1777	北京	Ventavon	24	363—395	33	150—	13	445—466	天体現象に関する皇帝の質問。シナの食事。
	北京		24	396—430			13	446—487	1774年10月23日のBenoit神父の死, かれの生涯と業績。
	北京		24	430—435			13	487—490	南堂が去年焼けたが再建されたこと。白蓮教徒の叛乱。満洲における迫害。
	北京		24	435—457			13	491—505	金川討伐の將軍阿桂らの帰還, 俘虜の廟社への奉獻。





共産  
雪恥  
30日  
本年  
六倍  
0頁  
。新  
行。

ノ多  
モノ  
最近  
密出  
得タ  
ジタ  
。

って  
涯と  
「解  
とい  
譜の  
があ  
に、  
ま用

13	505—507	3	113—125	布教聖省代理人の広東駐留を皇帝が認めたこと。 北京近郊の信者集団に加えられた迫害。白蓮教徒への弾圧。 四川省のキリスト教事情。乾隆帝が宣教師たちに与えられた厚遇。 シナの国初から B.C. 206年までの天文学史。典札問題解決のために派遣された教皇特使 Tournon のシナ滞在記。 外国宣教会。宣教師 Gleyo が 1767—1777の間に四川省で体験した迫害。 山東省における白蓮教徒の乱。南堂の焼失、北京のキリスト教事情。 Berlinの請いに応じて自己の通信に関する説明を送付すること。 発信人 (正しくは Dufresse) は外国宣教会員、四川のキリスト教事情。 湖北穀域の信者集団の状態。 渡航、布教事業、体験した困難。 d' Ollières 神父の昇天を兄に報じたもの。 Cibot, d' Ollières, Colas 諸神父の死。
13	507—520			
13	520—531			
14	305—447			
14	447—483			
14	483—521			
14	522—535			
14	536—537			
14	538—541			
14	541—545			
14	545—563			
14	563—567			
14	567—569			
24	458—462			
24	462—482			
24	483—500			
26	71—295	Gaubil		
26	296—354	Thomas		
26	355—416	Gleyo		
26	417—439	Bourgeois de Charvet	北京	1775. 5. 15
26	440—443	Bourgeois de Charvet	北京	1778. 9. 15
26	444—448	Dufrène	四川省	1779. 10. 12
26	449—455	Lamathe du Gad	湖北	1780. 6. 12
26	456—485	d' Ollières 兄	北京	1780. 10. 15
26	486—492	Bourgeois d' Ollières	北京	1781. 11. 17
26	493—496			



## 資料 1

## 思想問題に關係ある中国の定期刊行物

(民国14年12月現在)

この資料は、ワラ半紙14枚にガリ版ずりされているものであって、冒頭には  
北秘第 393 号  
大正14年12月12日

在北京

立田内務事務官

殿

と記されている。原資料は近代中国研究センター所蔵。

思想問題ニ関スル定期出版物ニ関スル件  
現在支那ニ於ケル思想問題ニ関スル定期出版物ハ多種多様ニシテ、殊ニ上海事件後急激ニ増加シ、其ノ種別恐ラクハ三百種ヲ超ユベシ。然レドモ其ノ多クハ新聞紙一頁

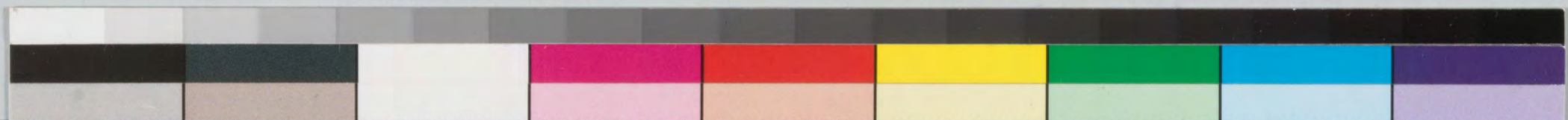
八ツ折、即チ四六倍版八頁ノ極メテ粗末ナルモノニシテ雑誌ノ体裁ヲ備フルモノ至テ少ク、多数ハ七八号、中ニハ創刊号ヲ発行シタル儘ニテ停刊、廢刊シ永続スルモノ稀ナリ。  
当方ニ於テ調査判明セルモノ別紙ノ通ニ有之御参考迄。

## 思想問題ニ關係アル定期刊行物調 (民国14年12月)

名 称	創刊年月日 (発行別)	発行地	発 行 所	主義系統	定 価	摘 要
労働青年	(週刊)	上海	労働青年社	共産主義	銅貨 2 枚	上海ニ於ケル共産主義系労働団体機関紙。
劳工日刊	14年 9 月26日 (日刊)	北京	劳工日刊社	反共産	銅貨 2 枚	交通部ガ国有鉄道従業員組合ヨリ共産派ノ勢力ヲ駆逐スル目的ニテ発行ス。新聞紙半頁大4頁。14年10月29日第30号発行。
六 六	14年 7 月 6 日 (不定期)	杭州	浙江医薬連 合会		非 売 品	上海事件宣伝機関紙。四六版 8 頁。
破 壊	(不定期)	長沙	長沙平民大 学	無政府主 義		湖南労働会ト關係アリ、無政府主義系労働団体機関紙。
反帝国主 義運動	13年 7 月25日 (不定期)	北京	反帝国主義 運動大連盟	排外左傾	非 売 品	当初旬刊トシテ発行シタル 7 号ヲ発行後停刊。本年6月20日上海事件ニ関シ第8号ヲ刊行セリ。四六倍版 8 頁。
北大経済 半月刊	12年11月 (月 2 回)	北京	北京大学経 済学会	マルクス 主義	銅貨 7 枚	マルクス主義其ノ他社会主義ニ関スル学説ノ研究発表。四六倍版 8 頁。14年 5 月17日、第38号発行。

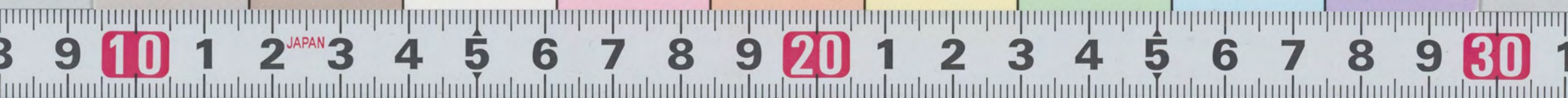
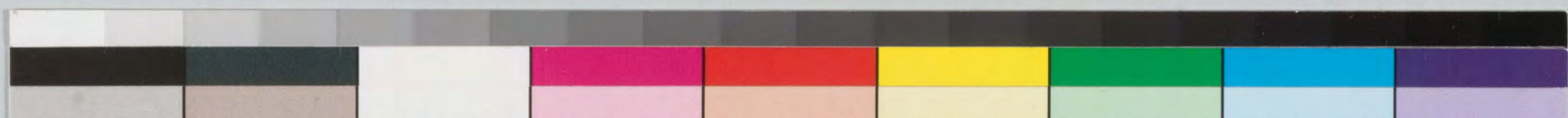


香港労働週刊	(週刊)	香港	香港労働週刊社	共産主義			香港罷業委員会機関紙。沙面事件発生後創刊。
香港学生	14年7月8日 (不定期)	香港	香港学生連合会	共産系	非売品		広東事件宣伝用トシテ創刊シタルモ、目下学生研究会ノ機関紙トナル。新聞半頁大、4頁。
北京学生	14年5月4日 (週刊)	北京	北京学生連合会	共産系	銅貨3枚		本年五四国恥紀念日ニ創刊ス。共産系師範大学派ノ機関紙。四六倍版、8頁。本年9月3日、第18号発行。
北京工人	14年6月15日 (週刊)	北京	北京総工会	共産主義	銅貨2枚		縦3寸、横2寸ノ豆本ニシテ労働者ニ階級闘争ヲ宣伝ス。10月22日、第15号発行。
怒潮	14年6月 (月刊)	長沙	達成法律専門学校学生会	共産系	2仙		同校共産系分子ガ上海事件宣伝用トシテ刊行ス。四六版、約30頁。8月21日、第3号発行。
独一	14年10月10日 (週刊)	広州	独一社 (広東大学内)	国家主義	銅貨4枚		広東共産化ニ対スル反動運動機関。新聞紙半頁大、4頁。
独立	14年11月 (旬刊)	上海	独立旬刊社	孫文主義			邵元冲、戴天仇等執筆ス。孫文学説ノ研究発表ヲ目的トス。非共産主義的臭味ナリ。
東方雑誌	光緒32年 (月2回)	上海	商務印書館	公平穩健	15仙		政治外交経済ヲ論評ス。支那ニ於ケル最古ノ最モ權威アル時事雑誌ナリ。四六倍版、150頁内外。14年10月25日、第22巻第20号発行。
導報	14年3月1日 (週刊)	北京	韓僑同志会	共産系	非売品		在京鮮人ノ独立運動機関紙。石版摺鮮文、新聞紙半頁大、14頁。14年10月21日、第24号発行。
洞庭波	(旬刊)	長沙	湖南安社	無政府主義			北京安社系同人孟章(湖南第二師範学校教師)ノ発行スル機関紙。
中華婦女	14年3月8日	北京	中華婦女協會	左傾	非売品		婦人解放運動機関紙。四六倍版、16頁。
中国学生	14年7月15日 (週刊)	上海	全国学生連合会總會	共産系	非売品		全国学生連合会ノ機関紙。四六倍版、4頁。14年9月5日、第6号発行。
中国軍人	14年2月2日 (月刊)	広州	中国軍人連合会	共産主義	3仙		広東黄埔軍官学校ノ機関紙ニシテ、軍人ニ共産主義宣伝ヲ目的トス。四六倍版、約50頁。14年8月17日、第6号発行。
中国工人	13年 (不定期)	鄭州	全国鐵路総工会	共産主義	銅貨12枚		全国鐵路総工会ハ現代支那ニ於ケル最モ内容充実セル労働団体ニシテ、純然タル共産派ナリ。14年4月、第4号発行。
中国評論	14年5月4日 (週刊)	南京	中国評論社 (南京東南大学内)	孫文主義	銅貨6枚		三民主義的立場ヨリ政治ヲ評論ス。四六倍版、16頁。14年7月7日、第1巻第10号発行。



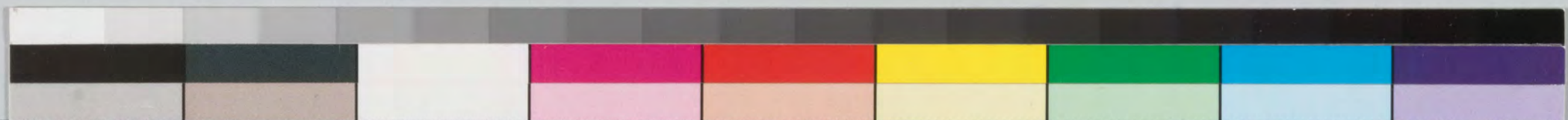


中国青年	12年10月 (週刊)	上海	中国共産主義青年団	共産主義	2 仙	純然タル共産主義宣伝機関紙。四六版, 16頁。14年11月7日, 第101号発行。
中州評論	14年9月1日 (不定期)	開封	中国共産党 河南区執行 委員会	共産主義	銅貨5枚	共産主義宣伝機関紙。四六倍版, 8頁。9月7日, 第4号発行。
沈 鐘	14年10月1日	北京	北京大学内 浅草社	厭世哲学	銅貨4枚	毎号死ヲ題トセル詩文, 創作物ヲ掲載ス。四六倍版, 10頁。11月7日, 第5号発行。
音 声	(旬刊)	北京	北京基督教 青年会	基督教主義	銅貨4枚	新聞紙半頁大, 4頁。14年5月6日, 第7号発行。
甲 寅	14年7月18日 (週刊)	北京	甲寅週刊社	穩 健	10 仙	紙質, 体裁共ニ優良ナリ。周作人等ノ新文学運動(白話文学)ニ對抗シ, 古文学派ナリ。民国11, 2年頃発行シ, 一時中絶シ居タルモ, 本年7月章士釗ニ依リ復活ス。最近ニ於テハ, 教育界新派ニ対スル章士釗ノ機関ナリ。四六倍版, 30頁。11月21日, 第1巻第2号発行。
革 命	14年1月1日 (月刊)	北京		共産主義	5 仙	北京在住共産主義鮮人ノ宣伝機関紙。石版摺鮮文, 四六版, 8頁。8月1日, 第8号発行。
学 林	(月刊)	北京	学林雜誌社	穩 健	40 仙	時事, 政治ヲ論評ス。論旨健全。四六倍, 100頁内外。14年6月, 第11号発行。
学 滙	民国10年頃 (不定期)	北京	北京安社	無政府主義		一時中絶シタルコトアルモ, 昨年11月再刊。本年4月, 景梅九ノ逃亡ニ依リ再ビ中絶ス。四六版, 8頁。14年4月16日, 第516号発行。
学 衡		南京	学 衡 社	国 学 学		文学雜誌。菊版, 16頁。13年10月, 第34号発行。
疎 星	14年8月13日 (週刊)	北京	疎 星 社	准国家主義	銅貨4枚	白話文学宣伝機関紙ナルモ, 時ニ国家主義的政治外交論ヲ掲載ス。14年8月20日第2号発行。
熱血日報	14年6月9日 (日刊)	上海	熱血日報社	共 産 系	銅貨1枚	上海事件宣伝機関紙。新聞紙半頁大, 4頁。14年6月14日, 第6号発行。
雲 南	14年2月3日 (週刊)	北京	雲南旅京学 会	社会主義的	銅貨3枚	論旨官僚貴族文学ヲ排斥シ, 平民文学ヲ主張ス。在京雲南学生ノ機関紙。14年4月17日, 第12号発行。
農 民	14年3月1日 (旬刊)	北京	中華平民教育 促進会農 村部	農民教育 民党共産 系	銅貨2枚	農民ニ千字文教育(普通用フルー千字ヲ教フ)ヲ為スヲ目的トシ, 傍ラ階級闘争ヲ宣伝ス。四六倍版, 8頁。11月21日, 第27号発行。
苦力週刊	(週刊)	長沙	長沙工人会	共産主義		長沙ニ於ケル共産系労働者宣伝機関紙。
科挙宗教	14年5月15日 (月2回)	北京	北京反基督 教大同盟	排外共産 系		教会教育ニ反対スルノミナラズ, 一般欧米勢力ノ侵入ニ反対ス。四六倍版, 8頁。14年6月25



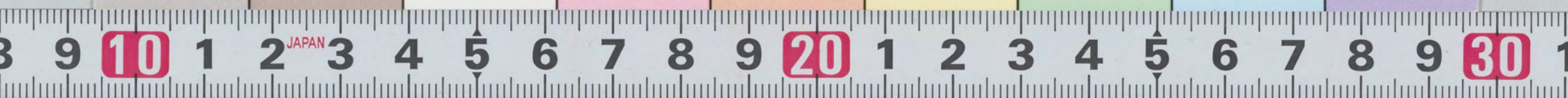
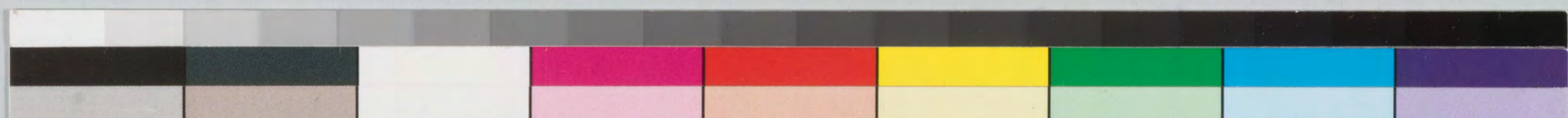


驅江特刊	14年8月29日 (不定期)	上海	上海南方大 学学生会	社会主義 左傾	非売品	日, 第4号発行。 南方大学生の大部分は江亢虎ノ社会民主主義ヲ 奉ジ, 今夏清室陰謀問題発生後, 江放逐ノ宣伝 機関トシテ刊行ス。共産系ノ使喚アリ。新聞紙 半頁大, 4頁。
芸林	14年1月 (半月刊)	武昌	時巾合作社	新文学派		胡適一派ノ白話文学雑誌。
血花	14年6月16日 (不定期)	南昌	江西滬案後 援会	排外共産 系	非売品	上海事件, 漢口事件発生後, 反帝国主義宣伝機 関トシテ発生ス。新聞紙半頁大, 4頁。14年7 月7日, 第5号発行。
現代評論	13年 (週刊)	北京	現代評論社 (北京大学 第一院)	国家主義	銅貨4枚	本年9月5日, 第2卷第39号ヲ発行ス。四六倍 版, 10余頁。
建国粵軍	14年1月 (不定期)	広州	建国粵軍社	共産系	30 仙	広東軍機関紙。四六倍版, 約100頁。体裁優美 ノ月刊雑誌。14年2月, 第2号発行。
沸血	(週刊)	長安	陝西学生連 合会	排外左傾	非売品	上海事件ニ関シ発行セル機関紙。新聞紙半頁大 4頁。14年8月1日, 第5号発行。
武漢学生	14年6月3日 (週刊)	漢口	武漢学生連 合会	共産系	銅貨2枚	武昌, 漢口ニ於ケル学生連合会ノ機関紙。四六 倍版, 8頁。14年7月15日, 第7号発行。
武漢工人	(週刊)	漢口	武漢総工会	共産主義		武昌, 漢口ニ於ケル共産系労働団体ノ機関紙。
風週	14年12月3日 (週刊)	北京	風社	穩健派非 共産主義	銅貨8枚	国民党中央執行委員候補委員反共産派要人張秋 白等関係ス。学生ガ政治社会問題等ニ関シ學術 ヲ余所ニ狂奔スルヲ戒メ, 剛健ノ氣風ヲ宣伝養 成スルヲ目的トス。菊版, 18頁。14年12月3日 第1卷第1号発行。
婦女週聞	14年1月 (週刊)	北京	北京薔薇社 (北京女子 師範大学 内)	婦女解放 左傾	銅貨4枚	所謂新シキ女断髮組ノ婦人運動機関紙ナリ。四 六倍版, 8頁。14年8月19日, 第36号発行。
文学週報	11年1月 (週刊)	北京	文学週報社	古文学	2 仙	純然タル古文学研究雑誌ナルモ, 時々文学的立 場ヨリ政治ヲ論ズ。四六倍版, 8頁。14年8月 23日, 第187号発行。
工報	14年5月27日 (日刊)	北京	北京工人連 合会	非共産派 労資闘争 主義	銅貨2枚	京漢鉄道長辛店工人会ヲ中心トスル非共産派系 労働運動機関紙。新聞紙半頁大, 4頁。百数号 続刊。
工余	11年 (不定期)	上海	工余社	無政府主 義	非売品	全紙無政府主義ニ関スル記事ニテ埋メラル。菊 版, 約80頁。昨年9月30日, 第3卷第2号發 行, 以来停刊。





工余倶楽部	(週刊)	北京	工余倶楽部	無政府主義		無政府主義ノ労働団体機関紙。
江蘇評論	(週刊)	上海	江蘇評論社	孫文主義		
工人之路	14年6月25日 (日刊)	広州	中華総工 会省港罷工 委員会	共産系	非売品	香港及広州罷業ニ際シ、其ノ宣伝機関トシテ発行ス。新聞紙半頁大、4頁。14年9月7日、第75号発行。
工人自覚	14年9月9日 (週刊)	北京	工人自覚社	反共産主義 (無政府系)	銅貨2枚	京漢鉄道長辛店工会ヲ中心トスル反共産派労働団体北京工人連合会ガ、北京総工会(共産系)ニ対抗シテ発刊セル同一体裁ノ機関紙。共産派総工会攻撃ヲ以テ事トス。14年9月29日、第3号発行。
工人週刊	13年6月11日 (週刊)	鄭州	全国鉄路総 工会	共産主義	銅貨1枚	共産主義系労働団体全国鉄路総工会機関紙。中国共産党ト関係アリ。14年11月15日、第128号ヲ発行。新聞紙半頁大、4頁。
洪水	14年9月16日	上海	創造社機 関紙	共産系 新文学雜 誌	5 仙	共産主義的創作物多シ。横書ヲ特色トス。四六倍版、約30頁。14年11月16日、第1巻第5号発行。
公理日報	14年6月3日 (日刊)	上海	上海學術 団体連合 会	無政府主 義系	銅貨4枚	エスペラント協会ト関係アリ。新聞紙半頁大、4頁。14年6月8日、第6号発行。
国学叢刊		南京	南京東南 大学	穩 健		古代文化思想ノ研究発表
国学月報	14年3月7日 (月刊)	北京	愛智学会 国学部 (北京大 学内)	国粹主義	銅貨4枚	古代文化ノ研究ヲ発表シ、国粹主義ヲ主張ス。新聞紙半頁大、4頁。14年6月7日、第4号発行。
国学月刊	(月刊)	北京	北京民 国大学 国学研 究会	穩 健		
国魂	14年10月10日 (旬刊)	北京	国魂社	国家主義	銅貨4枚	国魂社ハ国家主義団体聯合会ニ加盟セル団体ニシテ、共産主義ニ対スル反動派ノ機関紙。四六倍版、8頁。14年11月30日、第6号発行。
国学週刊	(週刊)	北京	北京大 学国 学研 究所	国文学		
国学門	14年10月 (週刊)	北京	明清史 料整 理会	古文学 雜 誌		主トシテ明清ノ史料ノ蒐集、研究ノ結果ヲ発行ス。陳万里等執筆ス。
国風日報	10年頃 (日刊)	北京	国風日 報社	無政府主 義	銅貨2枚	北京安社日刊機関紙。論旨驕激ニシテ、民国12年、我皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル記事ヲ掲載シ、我公使館ヨリノ抗議ニヨリ発行ヲ停止セラレ、昨年11月再刊。本年4月16日、再ビ其発行ヲ禁止





							セラル。普通日刊新聞紙体。14年4月15日、第1630号。
国聞週報	13年 (週刊)	上海	国聞週報社	穩健不偏	15 仙		毎号約40頁。体裁優美ナル週刊雑誌ナリ。政治時事ヲ論ズルモ、官僚軍閥ニ好意ヲ有ス。14年7月19日、第2巻第27号發行。
国語週刊	14年6月 (週刊)	北京	中国国語運動社	国語国字ノ改良			国語ノ統一、注音字母(表音文字)ノ宣伝ヲ為ス。14年11月15日、第23号發行。
国民導報	14年8月15日 (週刊)	上海	国民導報社 (上海商科大学内)	孫文主義	銅貨6枚		正系国民党機関紙。四六倍版、16頁。14年8月21日、第2号發行。
国民會議	14年1月28日 (週刊)	北京	全国国民會議促成會聯合總會	孫文主義	銅貨2枚		段政府ノ国民代表會議ニ反対スル国民党系分子ノ機関紙。第10号迄發行シタルモ、以後停刊セリ。
国民週報	14年2月15日 (週刊)	北京	国民党北京特別市党部	孫文主義	銅貨3枚		四六倍版、8頁。14年6月14日、第18号發行。
国 是	13年12月8日 (不定期)	北京	国是促進會	孫文主義	銅貨3枚		三民主義ヲ基礎トスル国民革命ヲ主張ス。新聞紙半頁大、4頁。
極 楽 地	(不定期)	漢口	人道医院	無政府主義			過般、蕭耀南等ニ殺害セラレシ蕭英等ノ發行セシ機関紙。
黒 瀾	(不定期)	南京		無政府主義			省立第一中学校教師胡元伯等ノ發行スル機関紙
孤 軍		上海	孤軍雜誌社	無政府主義			極端ナル個人主義ニシテ、当時盛シニ「非孝」ヲ主張セリ。其後廢刊シタルガ如シ。四六版、20頁内外。11年9月、11号發行。
孤軍週報	13年12月19日 (週刊)	北京	孤軍社 (法政大学内)	国家主義	銅貨4枚		法政大学内国家主義者ノ機関紙。四六倍版、8頁。14年11月29日、第50号發行。
贛 民	14年10月30日 (月刊)	北京	贛民月刊社	穩 健	10 仙		時事問題ヲ論ズ。排外的ナルモ、論調穩健、菊版、約100頁。
悟 悟	13年12月	蘇州	悟 悟 社	共產主義	4 仙		革命文学宣伝ヲ目的トシ、階級闘争ヲ主張ス。四六版、32頁。
語 絲	14年1月16日 (週刊)	北京	新 潮 社	新文学派	銅貨4枚		北京大学文科機関紙。四六倍版、16頁乃至24頁。14年9月7日、第43号發行。
越 旭		北京	浙江同鄉會	民主主義 穩 健	非 売 品		理想的の民主主義、法治国家ヲ主張ス。四六倍版14頁。14年11月15日、第4号發行。

ヲ發、第

勞働系)産派第3

。中8号

四六号發

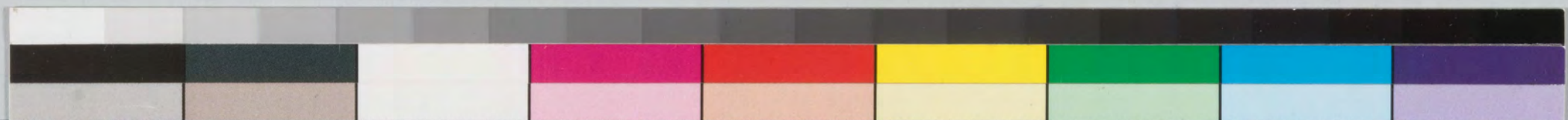
大、

ス。發行。

体ニ四六

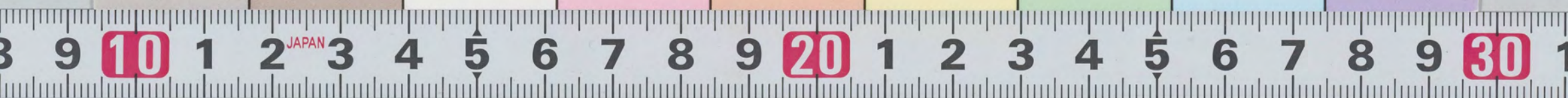
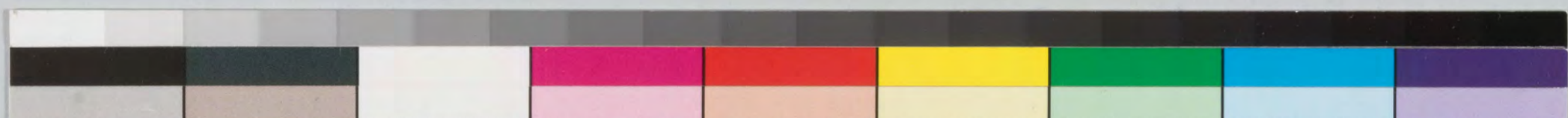
發行

国12、我、昨禁止



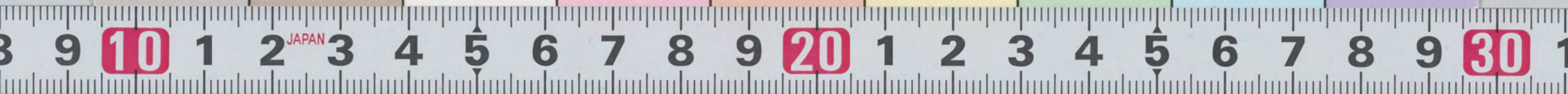


遠東雑誌	14年11月 (月刊)	北京	遠東雑誌社		2 仙	王正廷等ト関係アリ。政治, 外交ヲ論ジ, 英, 仏文欄アリ。
燕 風	(不定期)	北京	燕 風 社		銅貨4枚	純文学的ニシテ, 政治的ノ色彩ナシ。思想系統明瞭ナラズ。四六版, 8頁。14年3月15日第6号発行。
鐵路職工 教育旬 刊	14年3月25日 (旬刊)	北京	鐵路職工教 育会	非共産党 系階級闘 争主義		京漢鉄道長辛店工会機関紙。14年6月15日第9号発行。
敵 愾	(週刊)	広州	広 東 大 学	共 産 系	非 売 品	沙面事件発生後, 宣伝用トシテ発行ス。新聞紙半頁大, 4頁。14年7月3日, 第2号発行。
安源旬刊		萍郷	安源工人会	共産主義		安源炭坑労働者機関紙。
済南学生	(週刊)	済南	山東学生連 合会	共 産 系	銅貨2枚	上海事件発生後, 其ノ宣伝ノ為メ発行シタルモ目下同会ノ機関紙トナレリ。新聞紙半頁大, 4頁。14年7月4日, 第4号発行。
山東工人	(週刊)	済南	山東総工会	共産主義		青島紡績罷業後発行。
山西学生	14年7月30日 (不定期)	太原	山西学生連 合会	左 傾	非 売 品	新聞紙半頁大, 4頁。
旭 光	14年5月1日 (旬刊)	北京	旭 社 (北京大学 内)		銅貨3枚	新文学。四六倍版, 4頁。14年6月1日第4号発行。
教育新刊	12年12月 (週刊)	北京	教育革新社 (師範大学 内)	共 産 系	銅貨2枚	教育界ノミナラズ, 一般社会問題ヲモ論ジ, 特ニ労働者ノ教育(階級闘争的)ヲ主張ス。新聞紙半頁大, 4頁。新聞紙体。12年2月14日, 第8号発行。目下停刊中。
嚮 導	12年3月 (週刊)	杭州	中国共産党 南方党部執 行委員会	共産主義	銅貨4枚	第三インターナショナル本部諸名士ノ講演, 其他共産主義ニ関スル記事ヲ以テ網羅サル。四六倍版, 8頁。14年11月7日, 第135号発行。
狂 飜	13年11月21日 (週刊)	北京	北 京 安 社	無政府主 義	銅貨4枚	文学方面ヨリ無政府主義ヲ宣伝ス。四六版, 8頁。14年3月22日, 第17号発行。
共 進	11年2月1日 (半月刊)	北京	共 進 社	国家社会 主義	銅貨4枚	連省自治ヲ主張ス。創刊後3年有半ニ及ビ90余号ヲ出ス。四六版, 16頁。14年6月1日, 第83号発行。
協 進	14年3月16日 (半月刊)	北京	協 進 社	国家主義	銅貨4枚	排外ヲ目的トスル国家主義団体ナルモ, 国民党ヲ正面ノ敵トシテ反対ス。14年4月1日, 第2号発行。
救 亡	14年6月6日 (週刊)	北京	国 魂 社	国家主義	銅貨2枚	国家主義団体国魂社ノ宣伝機関紙。四六倍版, 4頁。14年7月21日, 第7号発行。



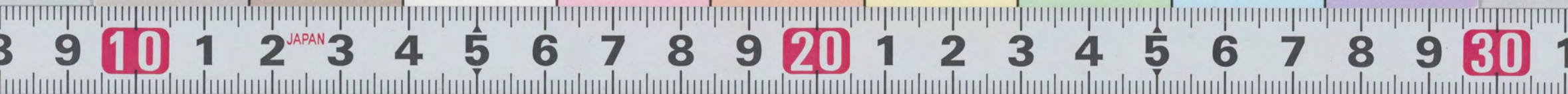
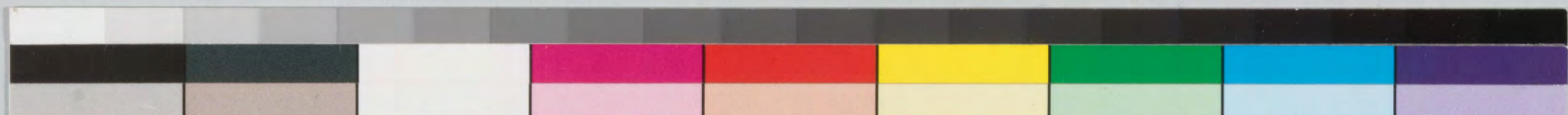


述学	(月刊)	北京	愛智学会雲南尚志学会	国粹主義	銅貨4枚	周代文化ノ研究ヲ発表シ、国粹主義ヲ主張ス。新聞紙半頁大、4頁。
救国特刊	14年6月22日 (週刊)	北京	西山学生会 (中法大学内)	共産系	非売品	上海事件宣伝機関紙。四六倍版、8頁。14年7月5日、第3号発行。
救国周刊	13年4月12日 (週刊)	長沙	湖南外交後援会	孫文主義	非売品	長江筋ニ於ケル排日ノ先鋒ナリ。湘報ノ副刊トシテ発行ス。四六倍版、4頁。13年9月6日第21号発行。
鳴不平		上海		無政府主義		北京安社無政府主義者ノエスペラント語宣伝機関紙。
民鐘	12年 (不定期)	広東新会	民鐘社	無政府主義	非売品	無政府主義宣伝機関紙。四六倍版、4,50頁。14年2月、第11号発行。
民衆	14年2月 (週刊)	北京	民衆社	新文学		平民文学雑誌。
民衆半月刊	14年10月 (半月刊)	北京	北新社	第二インターナショナル系		最近創刊セラレタル唯一ノ第二国際系機関紙ニシテ、第三インターナショナルニ挑戦ス。
民衆文芸	13年12月 (週刊)	北京	京報社	孫文主義 (准共産)	銅貨2枚	文芸ヲ以テ階級闘争ヲ宣伝ス。四六倍版、4頁。14年5月、第20号発行。
民生週刊	12年4月7日 (週刊)	北京	民治主義同志会	孫文主義	銅貨4枚	従来ハ北京国民党員ノ機関ナリシモ、目下ハ同党正統ナリト主張スル民治主義同志会ノ機関紙ナリ。三民主義ヲ高唱シ、民党部内ニ於ケル共産派ニ挑戦ス。四六倍版、12頁。14年11月7日第101号発行。
女星	(旬刊)	天津	湖南労工会天津支部	無政府主義		女工ニ対スル主義宣伝機関。
実践	14年8月3日 (週刊)	北京	中山主義実践社	共産系	銅貨4枚	国民党左派(准共産派)要人戴天仇、葉楚傖等執筆ス。三民主義ヲ看板トスルモ、論旨概ネ共産主義ヲ弁護ス。四六倍版、8頁。14年11月16日、第16号発行。
少年中国	(日刊)	蘇州	少年中国学会			
上海総工会日刊	14年6月20日 (日刊)	上海	上海総工会	共産主義	銅貨1枚	上海事件宣伝ト共ニ、労働者ノ赤化ヲ目的トス。新聞紙半頁大、4頁。14年8月29日、第71号発行。
上海工商学連合会日報	14年6月23日 (日刊)	上海	上海工商学連合会	排外共産系	銅貨1枚	上海事件ニ関シ機関紙トシテ発行ス。新聞紙半頁大、4頁。14年7月11日、第19号発行。





上海工人	(週刊)	上海	上海総工会	共産主義	銅貨1枚	
掙札	14年7月12日 (1週2回)	開封	河南学生連 合会	左傾 共産系	銅貨2枚	上海事件ニ対スル河南学生連合会ノ機関紙。 四六版, 12頁。
自由週刊	14年8月 (週刊)	北京	中国大学出 版部	国家主義	銅貨8枚	中国大学反動派ノ機関紙。四六倍版, 16頁。 14年9月5日, 第1巻第6号発行。
自由人	13年10月15日 (月刊)	上海	上海自由人 社	無政府主 義	非売品 5仙	北京安社系上海同人ノ機関紙。四六倍版, 34, 5 頁。14年10月15日, 第2巻第1号発行。
春雷	(不定期)	広東 東山		無政府主 義		無政府主義宣伝ノ文学雑誌。
時事評論	14年7月1日 (月2回)	北京	時事評論社	穩健	5仙	編輯人凌揖民。学生連合会ノ行動ヲ攻撃シ, 労 農連邦時局攪乱ヲ批難ス。連邦自治ヲ主張ス。 在外各地留学生ト連絡アリ。四六倍版, 32頁。 14年8月1日, 第3号発行。
獅声	14年5月13日 (週刊)	広州	獅声社	国家主義	2分	獅声社ハ国家主義団体連合会ノ一員ニシテ共産 主義ニ反抗スル反動団体ナリ。四六倍版, 8頁。
市声週報	13年 (週刊)	漢口	市声週報社	孫文主義 (共産系)	銅貨4枚	三民主義ノ宣伝機関紙。
新論	14年2月10日 (月刊)	北京	志一学会	穩健	銅貨6枚	地方行政及ビ農村問題ノ研究ヲ目的トシテ農村 開発ヲ主張ス。概シテ穩健。四六倍版, 16頁。
新台湾	13年4月15日 (不定期)	北京	新台湾安社	無政府主 義	非売品	北京ニ在住無政府主義台湾人ノ主義宣伝機関紙。 昨12月, 第2号ヲ発行シタル以來停刊。14年12 月5日, 第2号発行。
新建設	12年11月 (月刊)	上海	新建設雜誌 社	孫文主義	20仙	上海ニ於ケル民党機関紙。四六倍版, 100頁内 外。14年12月5日, 第2号発行。
新民	14年11月6日 (旬刊)	北京	中華平民教 育促進会都 市部	労働者教 育, 民党 共産系		農民ノ姉妹紙ニシテ, 都市ニ於ケル労働者ニ千 字教育ヲ為スヲ目的トシ, 同時ニ階級闘争ヲ宣 伝ス。
新民国	13年11月20日 (不定期)	北京	新民国社	孫文主義	20仙	北京ニ於テ発行スル国民党ノ宣伝機関月刊雜 誌。毎号約140~50頁。孫文主義ノ宣伝ヲ目的 トス。14年6月1日, 第2巻第2号発行。
新使命	13年6月1日 (半月刊)	北京	新使命社 (中国大学 内)	共産主義	銅貨2枚	創刊当時, 頻リニ労農露国承認, 露支親善ヲ高 唱シ, 其後モ引續キ民衆運動ニヨル社会革命ヲ 主張ス。四六倍版, 8頁。
新星	14年1月1日 (月刊)	上海	中国新社会 民主党	国家社会 主義	20仙	江亢虎ヲ首領トスル新社会民主党ノ機関雜誌ナ リ。江ノ清室問題發生後停刊セルガ如シ。毎号 四六版, 約80頁。14年2月1日, 第2号発行。





新青年	12年9月 (3月1回)	広州	中国共産党 広州党部	共産主義	30 仙	第三インターナショナル機関紙。
真理	(週刊)	上海	真理週刊社	基督教主義	非売品	四六倍版, 8頁。14年8月29日, 第3巻第7号発行。
晨光	12年	北京				政治, 外交, 経済, 社会問題ニ対スル論説ヲ掲載ス。四六倍版, 123頁。13年1月, 第2巻第1号発行。
人声	(週刊)	重慶		無政府主義		江九疑等ノ発行スル無政府主義宣伝機関紙。
人生画報	14年7月30日 (旬刊)	汕頭	人生学会	排外	銅貨4枚	上海事件発生後, 排外宣伝機関トシテ創刊ス。新聞紙半頁大, 4頁。半頁ヲ画報トス。
微波	14年6月7日 (毎月3回)	北京	微波社		銅貨4枚	軟文学。四六倍版, 8頁。14年6月17日, 第2号発行。
批評	12年3月1日 (半月刊)	北京	中国大学出版部	社会主義	3 仙	時事社会問題ヲ批評シ, 各種社会主義ヲ批判ス。四六倍版, 20頁。13年4月16日, 第22号発行。
莽原	14年5月1日 (週刊)	北京	莽原社	新文学派		周樹人(周作人ノ兄)執筆ス。白話文学雑誌。四六倍版, 8頁。14年11月20日, 第31号発行。
猛进	14年3月5日 (週刊)	北京	猛进社 (北京大学第一院内)	国家主義	銅貨4枚	共産主義運動ニ対スル反動運動ヲ宣伝シ, 軍閥政治ニ反対ス。四六倍版, 8頁。14年11月27日, 第39号発行。
西北長鐘	12年12月 (旬刊)	長安	西北長鐘社		銅貨3枚	新聞紙半頁大, 4頁。14年6月20日, 第20号発行。
青年週刊	14年5月9日 (週刊)	北京	北京青年学会 (北京大学内)	左傾	銅貨2枚	章士釗等ノ守旧派ニ対抗シ教育機関ノ自治ヲ主張ス。四六倍版, 4頁。14年6月7日, 第3号発行。
成復		太原	山西洗心総社	儒教主義		道教ノ機関雑誌。菊版, 16頁。14年7月26日, 第354号発行。
政治生活	13年9月15日	北京	中国共産党 北京区執行委員会	共産主義	銅貨3枚	純然タル共産主義宣伝機関紙。四六倍版, 8頁。14年11月18日, 第58号発行。
醒獅	13年10月10日 (週刊)	上海	醒獅社	国家主義	2 仙	軍備拡張, 利権回収, 教会教育反対ヲ主張シ, 共産主義ニ反対ス。四六倍版, 8頁。14年11月14日, 第58号発行。
雪恥	(不定期)	長安	陝西雪恥会	排外驕激		陝西雪恥会ハ山西ニ於ケル労農, 学界連合ノ上海事件後援団体ナリ。新聞紙半頁大, 4頁。

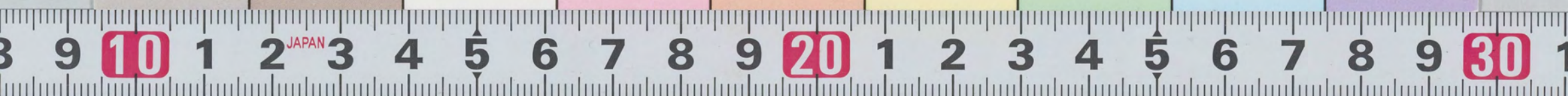
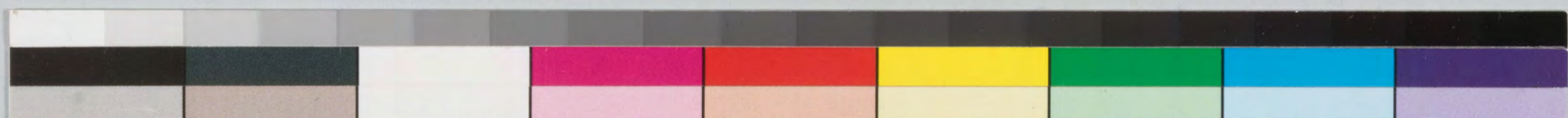
シテ  
中ニ  
モノ  
迄。

勢力  
4頁。

団体

刊。  
リ。

ノ研  
38号





雪恥日報	14年7月13日 (日刊)	北京	北京雪恥会	共産主義	銅貨2枚	14年8月1日, 第4号発行。 北京学生連合会左傾分子, 国民党左派其他共産派分子ヲ以テ上海事件後成立セル北京各界雪恥会ノ機関紙。約一ヶ月続刊セリ。14年7月30日第16号発行。
Esperanto 世界語週刊	14年1月4日 (週刊)	北京	北京世界語 専門学校	無政府主義系		エスペラント語並無国境主義宣伝機関紙。本年5月世界語専門学校閉鎖ト共ニ廃刊。四六倍版, 8頁。14年4月15日第15号発行。
前鋒	12年12月 (月刊)	広州	広州平民社	共産主義	20 仙	中国共産党広東支部機関紙。四六倍版, 100頁内外。13年2月1日第3号発行。
全国学生 總會特刊		上海	全国学生連 合会總會	排外共産系	非売品	上海事件ニ対スル学生連合会ノ宣伝機関紙。新聞紙半頁大, 4頁。14年7月9日第6号発行。

## 備 考

一 別表ハ、既往一箇年半ニ亙リ当地ニ於テ蒐集セル資料ニ依ル。

二 団体又ハ個人ノ発行スルモノニシテ、思想ニ関スル定期出版物ノミヲ掲出セリ。

但シ不定期ノモノト雖モ、同一題号ヲ用ヒ累刊スルモノヲ含ミ、日刊新聞紙ハ思想団体、労働団体等ノ専属ノモノノミヲ登載ス。

三 上海事件発生後、其ノ宣伝用トシテ発行シタルモノ

ノ中ニハ、運動ノ終熄ト共ニ自然廢刊シタルモノ多シ。其他ノ出版物モ目下続刊中ナルヤ否ヤ不明ノモノ多ク、実物ノ入手不能ナル少数ヲ除キテハ、其ノ最近発行ノ号数年月日ヲ記入シ置キタリ。

四 共産主義、無政府主義等ノ宣伝機関紙ハ総テ秘密出版物ニシテ、今春頃迄ハ比較的容易ニ入手スルヲ得タルモ執政府ガ此等驕激ナル出版物ノ発売頒布を禁ジタルヲ為メ、目下売品、非売品ニ係ラズ入手困難ナリ。

## 資料 2

## 朱 德 将 軍 ・ 年 譜

(「解放日報」民国35年11月27日)

中華民国35年11月30日発行の「解放日報」第2017号は、「慶賀朱總司令六十大寿特刊」であって、その第一、第二面は、朱徳の還暦を祝う毛沢東・周恩来・劉少奇・彭徳懐・葉劍英らの賀詞で満ちている。11月30日が朱徳の誕生日なのである。

「解放日報」は、朱徳の還暦を迎える日も近い11月27日、第一面に彼の年譜を掲げた。朱徳の詳しい伝記はA・スメドレーが書いている。“The Great Road; The Life and Times of Chu Teh”がそ

れで、これは英文版よりも早く、阿部知二によって邦訳出版されている(「偉大なる道：朱徳の生涯とその時代」岩波書店1955年6月発行)。いまさら「解放日報」の「朱徳將軍年譜」などしようがないというかも知れない。しかし、極めて簡単なこの年譜の中にも、スメドレーの記述とちがっている点があり、またそれを補うものもあるので、参考までに、次に訳出する。名詞は概ね原文のものをそのまま用い、翻訳しなかった。(市古宙三)



- 1886年 11月30日、四川省儀隴県馬鞍場琳瑯寨の一佃農の家に生まれる。
- 1891年 年5歳。私塾に入って読書する。同学年中で年はいちばん小さいが、字はいちばん多く知っている。
- 1895年 年9歳。地主に租地を取りあげられたので、やむなく大湾（琳瑯寨を距ること5里）に遷り住む。席聘三先生の処に就学し、先生に大いにその才能を重んぜられる。中国は日本と戦って敗れ、馬関条約を結ぶ。中国人民の日本に反対する闘争は、これから深刻化する。
- 1898年 戊戌政変。中国の改良運動は失敗したけれども、民主主義の思想はこれから中国人民に普及する。
- 1900年 義和団運動。八ヶ国の連合軍が北京を占領する。中国人民は、帝国主義者はみな中国を侵略することを知る。
- 1905年 満清政府は腐敗した封建統治を再び維持することのできないのを知り、改良を実行し、科挙を廃し、学校を興さざるを得なくなる。同盟会が成立する。
- 1906年 年20歳。順慶府中等学校に入って読書する。満清政府は「預備立憲」を宣布する。
- 1907年 21歳。成都に行って軍事学校の試験を受けるが、家庭の反対により入らず、高等師範学校体育専修科に入る。学費は多く借金する。この時、国家の大事に対する関心を更に深め、中国が一個の強盛な民主国家に変貌することを熱望する。
- 1908年 22歳。師範学校卒業後、帰郷して儀隴県立高等小学を創立する。間もなく地方封建勢力の排斥にあつて、職を辞し、雲南に赴く。
- 1909年 23歳。昆明に至って後、雲南講武堂に入学し、歩兵科を習う。間もなく当時の秘密革命組織、同盟会に参加する。
- 1911年 25歳。雲南講武堂卒業後、陸軍第19鎮第37協第74標に派遣され、秘密に将兵間に革命工作を進める。10月10日、武昌に反満の革命が勃発して後、旧曆9月9日の雲南起義に参加、兵一連を率いて総督衙門を攻撃占領し、ついで遠征部隊に参加して四川に出征する。全国革命運動の発展により、清帝は退位を余儀なくされる。
- 1912年 26歳。革命派と封建勢力の妥協により、大きな失望と不満とに逢着し、3月、部隊を率いて雲南に返る。のち半年、雲南講武堂区隊長および軍事教員となり、軍事学の研究に努める。
- 1913年 27歳。再び部隊に返り、雲南南部の蒙自・箇旧一帯に駐屯する。間もなく団長にのぼる。
- 1915年 29歳。袁世凱、憲法を改めて皇帝を称する。蔡松坡（蔡鍔）雲南にて起義し、護国軍第一軍を組織して北征する。朱徳將軍は第3梯団第6支隊長に任じ、四川に遠征する。その後、旅長に陞任し、四川一帯に5年間駐屯する。
- 1917年 社会主義の思想が中国に伝わる。ロシア革命。
- 1918年 32歳。この年から1920年までは、靖国軍の時期である。朱徳將軍は靖国軍第二軍に参加して第3混成旅長に任じ、北洋軍閥反対の長期闘争を進める。
- 1919年 五四愛国運動と新文化運動、中国新民主主義革命運動がはじまる。
- 1920年 34歳。過去における中国数次の革命は、均しくみな妥協によって失敗したのに鑑み、外国を遊歴し新しい革命の道を探求しようと強く思い、1920年、雲南にかえってから後は、部隊を部下の唐仏川に委ね、朱將軍は軍隊から離れる。この年、中国共産党小組が成立する。
- 1921年 中国共産党が成立する。朱徳將軍は雲南にいる。
- 1922年 36歳。春、雲南を去る。夏、四川、長江を経て上海にいたる。9月、フランス船「アルジェ」（安吉爾斯, Algiers）号に乗って欧州に行く。10月22日、ベルリンにいたる。周恩来同志を知り、やがて共産党に加入する。工作、学習に努力するほか、好んで外出遊歴し、第一次大戦の遺蹟を参観する。





1923年 37歳。秋、ゲッティンゲン大学に行き、社会科学の講義を聴く。

1924年 38歳。またベルリンに返り、政治週報を主宰し、ベルリンの国民党支部を領導する。この年、孫中山（孫文）が国共の合作を宣布し、中国国民党は中国共産党の援助のもとに、改組を実行する。

1925年 39歳。ベルリンにおいて、2回にわたり逮捕され、入獄する。一は逮捕されたブルガリア人を救援したため、一は上海工人の罷工を声援したためである。7月、ドイツ政府により国外に放逐される。欧州にあって、マルクス・レーニン主義の理論と中外の経済地理とを努力研究する。

1926年 40歳。中国革命の形勢が高漲する。朱將軍は欧州より帰国し、当時の北伐に参加する。7月、上海・南京の間に活動する。間もなく四川に派遣され、楊森の部隊を奪い取って国民革命を協助する。

1927年 41歳。また南昌に至って工作し、軍官教育団、工会・農会の訓練班のことを辦理する。後の江西省東北部の井崗山の幹部は、多くここで訓練されたものである。4月、蔣介石が上海の工人を屠殺する。6月、朱將軍は南昌当局のために「礼送出境」させられ、武漢に至る。7月以降、ひそかに南昌に帰り、秘密に葉挺・賀龍の諸將軍と活動し、共同して、有名な「八一」起義を組織する。間もなく南昌を退出して、広東東江に出師する。起義軍は東江において反動派軍隊に退散させられるが、朱將軍は残余の1000余人を収集して、游撃戦を行い、革命の旗幟を堅持して、湖南・江西辺境の崇義・上猶等の県に至って活動する。11月以降、また宜章・郴州一帯に移動して、農民を武装し、湖南南部に起義して、中国工農紅軍第一師を成立し、その師長となる。

1928年 42歳。5月の間、茶陵を襲い、井崗山にむかって移動して、毛沢東同志の率いる湖南農民起義の部隊と会合し、中国工農紅軍第4軍を組織し、その軍長となり、毛沢東同志は党代表となる。井崗山において、一方では周囲の群衆を發動して政権を創建し、他方では湖南・江西・広東辺境を游撃して、敵の進攻を撃滅する。

1929年 43歳。敵の兵力を分散し、敵の围攻を粉碎するため、軍を率いて梅嶺山脈にそって主動出撃し、閩

西・贛南・東江の各地に転戦する。以後、江西・福建辺境にそって両方面に発展し、興国・瑞金・龍岩等の地を攻撃、占領し、江西・福建ソヴェト区の基礎を定める。

1930～31年 1930年6月、中国工農紅軍第一軍団長となる。同年9月、中国工農紅軍第一方面軍総司令となる。一年以上のあいだ、蔣介石は継続して三次「圍剿」を組織するも、数かぎりない激戦の末、三次「圍剿」は悉く粉碎される。1930年、中国共産党第六屆第三次中央全体会議において、中央委員に選ばれる。1931年9月18日、日本が満州に侵入する。11月7日、第一次全国ソヴェト大会において、軍事委員会主席に選ばれる。

1932年 46歳。中国共産党の抗日の主張を実践するため、軍隊を率いて北上抗日するが、国民党軍の阻止にあって、北上の目的を達成することができない。

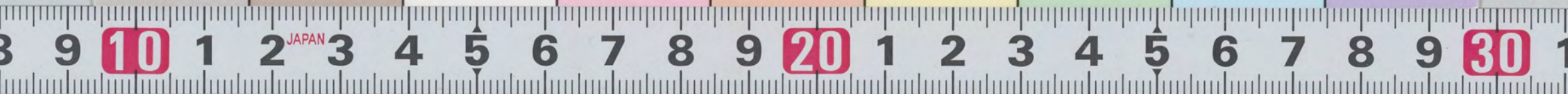
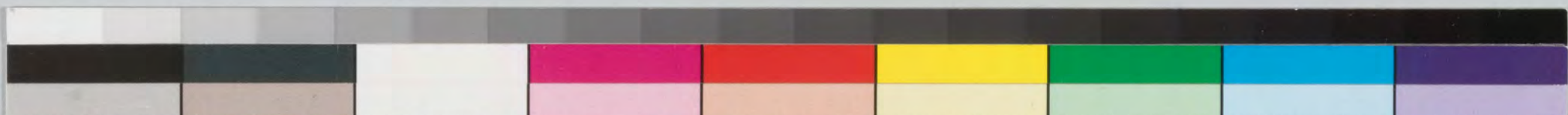
1933年 蔣介石が50万の大軍を以てする「第四次圍剿」も粉碎される。

1934～35年 1934年、蔣介石は100万の軍隊を以て、紅軍に対し「五次圍剿」を行う。10月10日、江西の紅軍を率いて、蔣軍の「五次圍剿」をつき破って、北上抗日する。それが有名な二万五千里の長征であって、一年の日時を費し、八個の省を過ぎ、敵の数限りない追撃と截堵とをしりぞけ、金沙江・大渡河・雪山草地等の天険を渡過して、陝北に到達する。朱徳將軍と第四方面軍および第一方面軍の一部は西康にとどまる。將軍は单身、一方では張国燾と妥協のない闘争をなし、他方では全体の幹部を説服して、党の北上抗日路線を堅持する。

1936年 50歳。6月、西康にとどまる紅軍は、任弼時・賀龍・関向応同志の率いる第二方面軍と西康の甘孜県に会合し、西康より大草地を経て長征して、陝甘寧辺区に到達する。10月9日、毛沢東・彭徳懐同志の率いる第一方面軍の主力と会合する。12月12日西安事変がおこる。中国共産党が和平解決の主張を堅持するので、蔣介石は釈放され、内戦は停止される。

1937年 51歳。春、延安に移る。7月7日、抗日戦争が爆発する。8月9日、南京に飛び、国防會議に参加する。9月6日、紅軍は改編されて国民革命軍第八路軍となり、朱將軍がその総司令となる。

神 1746年の福建省を中心とする迫害, Sanz 1-48 3 434-485 12 279-415 27 40-125 23 1748?





1938年 52歳。秋、一度延安に返り、共産党六中全会に出席する。10月11日、また山西東南部に返り、敵背後の抗日戦争を指揮する。

1939年 53歳。蒋介石が第一次反共高潮を發動して、山西にいよいよ「十二月事変」が発生する。河北・山西の八路軍は、蔣軍の朱懷冰の部隊の日寇と合同しての進攻を粉碎する。

1940年 54歳。延安の総部にかえる。

1941年 55歳。1月、蒋介石は第二次反共高潮を發動して、皖南事変をおこす。蔣軍の顧祝同の部隊は、抗戦に功のあった新四軍の軍部を武装解除し、軍長の葉挺は囚えられ、副軍長の項英は殺される。朱將軍は「南泥湾政策」（軍民が屯墾生産する政策）を提唱して、困難を克服する。

1944年 日寇が中原に進攻すると、国民党は河南・湖南・広西において大敗する。八路軍と新四軍とは極度の困難を克服して、反攻に転じ、広大な失地を回復する。

1945年 59歳。4月、中国共産党第七次全国代表大会において、継続して中央委員に選ばれる。8月、日本軍が投降すると、英米ソの三国政府に向って、八路軍と新四軍の受降権を要求する。駐華アメリカ軍の中国内政に対する干渉を抗議する。

1946年 60歳。4月、蒋介石はアメリカ帝国主義の援助の下で、停戦令に背いて、大挙して東北民主聯軍を進攻する。7月、蒋介石は全国的な大内戦を發動する。朱徳將軍は全国人民解放軍を率いて、奮起抵抗し、中国の独立・和平・民主のために戦う。

新刊紹介

中国の人民民主政権——その建設の過程と理論

福島正夫著

東京大学出版会 1965 A 5 596+19p.

①労働民主独裁の政権建設と国家機構、②人民民主政権の部分的建設と国家理論、③人民民主政権の拡大発展と国家理論、④人民民主政権の全国的成立と発展の4編からなる。①はソヴェト政権、②は辺区政権、③は解放区政権、④は中華人民共和国をとりあつかう。巻末に「中国の人民民主政権年表」が附録されている。

中ソ対立とその影響 日本国際政治学会編

有斐閣 1965 A 5 153p.

季刊『国際政治』の一。次の9篇の論文を収む。

- 中ソ論争にたいする一つの解釈(尾上正男)
- 中ソ対立におけるソ連の政策と立場(柳沢英二郎)
- 中ソ対立における中共の基本路線(高市恵之助)
- 中ソ対立における東欧諸国の立場(木村明生)
- フランス共産党と中ソ論争(柴田俊治)
- 中ソ対立とインドネシア共産党(谷川栄彦)
- 中ソ対立とインド共産党(野田福雄)
- 中ソ対立とアフリカ(浦野起央)
- ラテン・アメリカにおける共産主義運動と中ソの対立(賀川俊彦)

このほか資料として、石井菊次郎子爵遺稿「外交随想」(+)が収められている。

中国経済成長の条件 アジア政経学会編

アジア政経学会 1965 A 5 272p.

『現代中国研究叢書』Ⅲ。次の10篇の論文を収む。

- 大躍進をどう評価するか(江頭数馬)
- 矛盾論と経済成長(土井章)
- 中国の社会主義金融体制(宮下忠雄)
- 中国の人口問題(蔵居良造)
- 中国の技術水準と技術動員(佐藤真住)
- 中国農業の再編成(山本秀夫)
- 中国手工業の調整・再編(古田時夫)
- 供銷合作社の役割(米沢秀夫)
- 中ソ経済関係(明野義夫)
- 貿易構造の変化と日中貿易(富山栄吉)

中国労働運動の歴史的考察 向山寛著

1965 ガリ版 155p.

①中国労働運動史、②中国における反帝国主義労働運動、の2章から成る。①は1906年から1949年にいたる労働運動の簡単な概説。②は、1925年の5・30事件、6・23事件の研究。

8

湖広省で死亡した Saint-André 神父。

428-434

12

30-39

23

Benoist

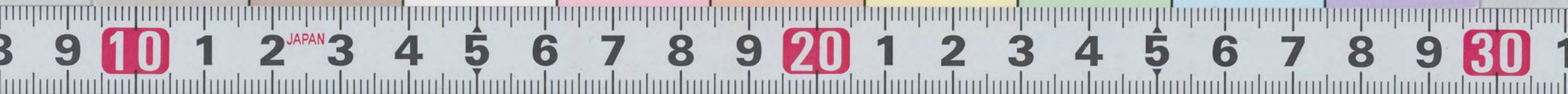
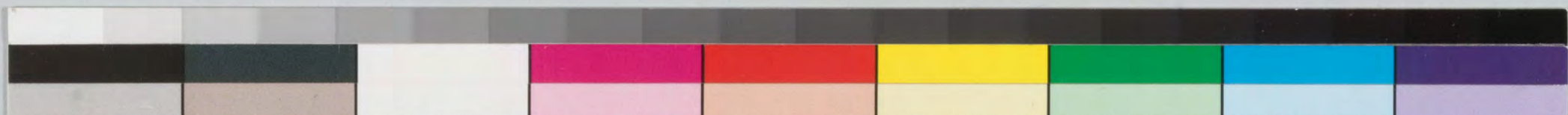
京

北

2

1746.11.2

1746.11.2





目 録

中国の文化大革命に関する  
日本雑誌論説目録

- 1) この目録は、1966年1月号から8月号の日本の雑誌から、中国のプロレタリア文化大革命に関する論説を抜き出したものです。
- 2) とりあげた雑誌は、国会図書館発行の「雑誌記事索引」収録のものに若干を加えましたが、週刊以上のものに限りしました。
- 3) 各論説は、月毎に雑誌名の五十音順に配列しました。また、著者名、題名のあとに雑誌名、巻号、掲載ページを記しました。
- 4) なお、8月号については8月10日現在発行のものです。

2 月	
批判された田漢と呉晗	朝日ジャーナル8-8 48
3 月	
中国に第五次整風運動——田漢・呉晗がまずヤリ玉に	エコノミスト44-8 30~32
呉晗の歴史劇《海瑞罷官》に対する批判をめぐって	大安12-3 31~33
4 月	
最近の中共の思想文化界における動向と問題点——中共文芸界における整風運動	外務省調査月報7-4 141~155
呉晗・田漢批判の行方	世界245 27~30
5 月	
竹内実：郭沫若の自己批判と文化革命——包囲される中国歴史学	朝日ジャーナル8-21 12~18
高まる中国の文芸整風運動——郭沫若「自己批判」の背景	エコノミスト44-20 24~25
須田禎一：郭沫若の作品は焼かねばならぬか	エコノミスト44-21 36~39
新島淳良：核実験の意味・整風の意味——中国像をめぐ	

る「神話」と「現実」	エコノミスト44-22 22~28
沢谷昭次：最近の中共における「学術・文芸論争」——整風の歴史的淵源と展開	季刊社会科学9 172~189
中島嶺雄：郭沫若「自己批判」の意味と背景——「整風」の中の「安全弁」	週刊読書人626
各務寮一：田漢批判——中国文芸整風運動の新局面	新世界ノート19 51~53
桑原寿二：焦慮と苦悶の声——中共の「政治優先」宣言	世界週報47-18 36~38
政治優先はすべての活動の根本である——「政治優先」第一論（人民日報社説4月6日）	世界週報47-18 38~41
政治は業務を統帥する——「政治優先」第二論（人民日報社説4月14日）	世界週報47-18 41~44
井上昌三：北京政権の焚書抗需——「文芸整風」吹き荒れる	世界週報47-20 28~32
郭沫若：労農兵大衆に学び労農兵大衆に奉仕せよ	世界週報47-20 33~34
桑原寿二：毛沢東体制は変わるか——文化革命の本質と世代の交代	世界週報47-21 18~24
階級闘争を絶対に忘れてはならない（解放軍報5月4日）	世界週報47-21 25~27
周恩来：党と国家の運命にかかわる——歴史的意義持つ文化革命（4月30日）	世界週報47-21 26~27
軍が整風の推進役——肅清の嵐は党中央へ	世界週報47-22 22~23
高炬：反党、反社会主義の黒い戦線に反して火ぶたを切ろう（解放軍報5月8日）	世界週報47-22 24~26
何明：目をこすって真偽を弁別せよ（光明日報5月8日）	世界週報47-22 26~27
凄味ある実力者・中共国防相林彪	世界週報47-22 51
郭沫若：労農兵大衆に学び、労農兵大衆に奉仕しよう——4月14日人民代表大会常任委員会第十三回会議にお	

Se  
乾隆帝の登極、蘇努一族の名誉回復。  
248-289  
11  
1-197  
23  
303-371  
20  
Parennin  
Dubalde  
京  
北  
1736.10.22





ける郭沫若副委員長の発言 大安12-5 24~26

6 月

- 中島嶺雄：毛沢東体制の動揺——彭真失脚をめぐる  
朝日ジャーナル8-25 12~19
- もう一つの中国整風運動——映画界の知識人批判  
朝日ジャーナル8-26 50~51
- 中国「文化革命」のゆくえ——彭真事件の意味するもの  
エコノミスト44-25 30~32
- 藤井満洲男：中国の文化革命のゆくえ——摘みとられる  
「軟化」の茅 エコノミスト44-26 40~43
- 岩波雄二郎・下中邦彦（対談）：「整風」下の中国を見  
て——帰国した訪中出版代表団にきく 週刊読書  
人628
- 北京政権の権力闘争——国府は軍部の台頭を重視  
世界週報47-23 12~14
- 最上層部の権力闘争へ——彭真解任はその第一歩  
世界週報47-24 9~11
- 中共の政治危機深まる——毛の後継ぎめぐる権力闘争  
世界週報47-25 6~11
- ブルジョア思想の浸食に抗す——社会主義文化大革命の  
意義（解放軍報社説4月18日） 世界週報47-25  
46~53
- 桑原寿二：林彪支配の足固め——大整風と今後の党路線  
世界週報47-26 16~23
- 毛沢東思想を先頭に幹部がどこでも率先しよう（紅旗  
誌1966年第8号社説） 世界週報47-26 24~26
- プロレタリア文化大革命万歳（紅旗誌1966年第8号社説）  
世界週報47-26 26~33
- 政治を先行させるには、あくまで毛沢東思想を統率の地  
位におかなければならない——三たび「政治を先行  
させる」について（人民日報社説4月22日）  
世界政治資料240 51~53
- 内山鶴：中国演劇界の思想闘争 中国研究月報220  
1~22

7 月

- 安藤彦太郎：文化大革命の渦中にて——彭真解任・北京  
市委改組にその本質をみる アジア経済旬報652  
1~15
- 山下竜三：陶鑄・新中共中央宣伝教育部長——卓越した  
指導理論と方法を買われて文化政策の元締に  
アジア経済旬報654 8~9
- 毛沢東：中共全国宣伝工作会議講話——大変動期におけ  
る知識人問題 アジア経済旬報654, 655 1~7,  
9~17

- 菊地昌典：中国とソビエトの文化革命——毛沢東とスタ  
ーリンの階級闘争観 潮73 95~105
- 西順蔵・杉村武・高木健夫（座談会）：毛沢東時代をど  
う評価するか——新時代の創造に胎動する中国の側  
面 潮73 106~117
- 山口一郎：整風運動と人間改造——毛沢東思想の発展か  
膠着か 潮73 118~125
- 岡本隆三：毛沢東と労農兵体制 潮73 136~143
- 江頭数馬：毛沢東の決断と整風運動の謎 軍事研究  
1-4 104~107
- 山村文人：文化革命闘争から党内闘争へ——書きかえら  
れる歴史と文化 経済往来 65~75
- 村上実：整風下の知識人——思想統制計画の展望  
経済往来 76~81
- 渦中の人とその作品 経済往来 90~119
- 郭沫若著 藤本幸三訳：郭沫若自己批判書 現代の眼  
7-7 115~117
- 彭真著 藤本幸三訳：文芸総点検演説——現代もの京劇  
競演大会での演説（1964年7月1日） 現代の眼  
7-7 117~126
- 竹内実：中国文化革命の意味 現代の眼7-7 126  
~129
- 斎藤秋男：社会主義文化革命の動向 国際問題76  
2~8
- 土井章：中共政権の権力構造 国際問題76 10~17
- 若松重吾：整風運動とその周辺 国防15-7 33~42
- 森永和彦：中国鎖国論 自由8-7 48~59
- 竹内実：郭沫若の歴史劇について 新日本文学21-7  
137~144
- 中国の「社会主義文化革命」 世界248 32~36
- 新島淳良：中国における教育の現代化と文化革命  
世界248 91~101
- 桑原寿二：批判精神の抹殺をはかる——中共の教育制度  
改革 世界週報47-27 16~23
- 金雄白：劉少奇に及ぶか——なお続く中共の大整風運動  
世界週報47-27 24~27
- 甲谷悦雄：徹底した思想改造運動——中共「文化大革命」  
の本質 世界週報47-28 33~37
- 藤堂明保：目で見た中国の文化界 大安12-7 2~  
5
- 芝田稔：整風下の北京 大安12-7 6~8
- 村松暎：整風運動と中国の文化 中央公論81-7  
94~113
- 野村浩一：毛沢東の思想と中国革命——とくに革命の主  
体の問題をめぐって 展望91 17~37
- 貝塚茂樹・加藤周一（対談）：中国的論理とは何か



- 展望91 38~51  
 藤堂明保：文化革命下の中国を訪ねて 東亜時論 8—7 2~13  
 文化革命の展開とその行方 東亜時論 8—7 14~20  
 中島嶺雄：『整風』中国への視角 図書新聞866, 870  
 荒正人：郭沫若の自己批判 文芸 5—7 180~187

## 8 月

- 波多野宏一：中国『文化大革命』の経済的側面 朝日ジャーナル 8—33 18~24  
 米沢秀夫：陳伯達・中共中央文化革命小組組長——中共の透徹した理論家 アジア経済旬報655 24~25  
 安藤彦太郎：夏の北京——文化大革命のその後の発展 アジア経済旬報656 20~23  
 山田久就：中国の文化大革命とソ連の「フ」路線——うつりゆく共産圏 外交時報1031 8~11  
 藤井彰治：中共「文化大革命」の実態をさぐる 外交時報1031 51~59  
 上別府親志：中共の思想改造運動 官公労働20—8 19~21  
 斎藤忠：中国整風の方向 軍事研究 1—5 38~41  
 洪秀毅：中共肅正の嵐 軍事研究 1—5 241~249  
 石川忠雄・蔵居良造（対談）：中共権力闘争の焦点——文化大革命の背後には何があったのか 経済往来 86~104  
 谷正綱：国際人士の中共観を正す——はたして大陸反攻の現実性はないであろうか 経済往来 105~111  
 中島嶺雄・野村浩一・野原四郎・檜山久雄・山田宗陸（座談会）：中国共産党の思想 現代の眼 7—8 90~103  
 小野田一・藤崎昇平：整風の北京より帰る 現代の眼 7—8 104~111  
 鄧拓：『燕山夜話』抄 コリア評論70 53~64  
 吳晗：歴史主義と歴史観——歴史上の人物の評価問題 コリア評論70 65~72  
 各務寮一：極限化する毛沢東路線——彭真失脚と毛沢東体制の新段階 新世界ノート22 99~109  
 彭真解任と整風運動の深化 世界249 169~172  
 金雄白：林彪に軍権集中——党内勢力に一抹の不安 世界週報47—31 54~57  
 桑原寿二：新たな特務政治始まる——文化革命の中間的総括 世界週報47—33 16~22  
 竹内実：毛沢東学習運動の分析 中央公論81—8 251~268  
 鄧拓著 平和彦訳：燕山夜話（抄） 中央公論81—8 414~449
- 江頭数馬：中国文化大革命ノート 東亜時論 8—8 2~10

## 補 記

- 沢谷昭次：中国における歴史人物評価論——「清官論」と吳晗・田漢批判の意味 東亜時論 8—5（5月） 5~11  
 毛沢東・林彪ラインの確立——四年ぶりの中央委全体会議 朝日ジャーナル 8—36（8月） 6~8  
 安藤彦太郎：北京で見た「文化大革命」——社会主義と資本主義の階級闘争 エコノミスト 44—35（8月） 14~21  
 「文化大革命」後の中国外交——長期路線の確立をめざす エコノミスト 44—35（8月） 25~26  
 梁夢廻：中国演劇界における整風運動 1——田漢批判 新劇13—8（8月） 17~23  
 中国共産党中央委員会：文化大革命十六項の決定 世界週報47—34（8月） 34~38  
 中村菊男：中共の転換はあり得るか 世界週報47—35（8月） 4~5  
 党中央の混乱を露呈——人民日報の回収騒ぎ 世界週報47—35（8月） 13~14  
 文化大革命を推進——ソ連修正主義と断固戦う（中共十一中全会コミュニケ 8月12日） 世界週報47—35（8月） 46~50  
 『文化大革命』進行中の著作批判 大安 12—8（8月） 24~25  
 北京に吹荒れる紅衛兵旋風——「むちゃな行動」を肯定する毛思想 朝日ジャーナル 8—37（9月） 6~8  
 淡谷悠蔵：毛沢東の思想 軍事研究 1—6（9月） 27~35  
 野口次郎：揺乱する中共の戦後史——一貫したリーダーシップの不在 経済往来 9月 66~73  
 大島康正：毛帝国の嵐のなかで 自由 8—9（9月） 10~27  
 梁夢廻：中国演劇界における整風運動 2——夏衍批判 新劇161（9月） 23~29  
 中国における「大文化大革命」について（プラウダ 6月26日号） 新世界ノート23（9月） 113~115  
 周信礼：大都市における西瓜販売の哲学問題について 新世界ノート23（9月） 120~124  
 中国の大学改造と毛思想 世界250（9月） 37~40  
 中野重治：ある戸惑い 展望93（9月） 170~174  
 中川善之助：中共整風と自由 法学セミナー 9月 1



## 新刊紹介

現代中国入門 ——何を読むべきか——

新島淳良・野村浩一共編

勁草書房(中国新書) 1965 281p.

一般の日本人が現代中国(最近100年の中国)のことを知るにはどんな本を読んだらいいか? という問いに答える書。研究者ではなく、一般の日本人を対象にしているから、邦文の、なるべく手に入りやすい本に重点が置かれていて、純学術書や外国の図書は含まれていない。全体が、①総説、②歴史、③政治・法律・経済、④思想、⑤教育・自然科学・中国語、⑥文学・美術・音楽芸能、⑦日中関係史・台湾問題、の7部に分れている。

現代中国の歴史 岩村三千夫著

徳間書店 1966 B 6 3冊(866p.)

五・四以降の現代中国史の概説書。①国民革命の展開と挫折=アヘン戦争から北伐まで、②内戦から抗日へ、③社会主義への道、の3巻から成る。①では、主として第一次大戦以後の中国国民革命の発展とその挫折とをあとづけ、②では、国民党と共産党の10年にわたる内戦の時期と日本との8年にわたる戦争をあつかい、③では、戦後の中国革命の発展と社会主義への中国の歩みをあつかう。

中国革命史 ——太平天国から人民公社へ——

池田誠・儀我壮一郎・松野昭二共著

法律文化社(市民教室) 1965 B 6 269p.

中国革命の各段階を代表する指導者を中心にし、それに人民が戦った相手を配しながら、中国革命の展開を描きだそうとしたもの。①革命はまだ成功せず(太平天国、洋務と变法)、②孫文と三民主義の前進、③蒋介石と四大家族、④魯迅、⑤毛沢東と新民主主義革命、⑥中国と世界の人民はかならず勝利する、の6章から成る。

中国革命の先駆者たち 島田虔次著

筑摩叢書45 1965 B 5 278+20p.

①梁啓超文三篇、②ある革命家の遺書、③陳天華「獅子吼」、④中国のルソー、⑤章炳麟について、の5篇を収む。①は、梁啓超の「亡友夏穂先生」、「支那の宗教改革について」、「言論界における私の過去と将来」、②は、陳天華の「絶命書」、③は、陳天華の「獅子吼」、④は、黄宗羲の「明夷待訪録」を邦訳し、それに詳細な訳註と解説をつけたもの。⑤は「中国伝統学術と革命」という

副題をつけた研究。いずれも嘗て雑誌に発表されたものであるが、補説がされている。

ブルジョワ革命の比較研究 桑原武夫編

筑摩書房 1964 A 5 670+15p.

京都大学人文科学研究所は1960年から3年にわたって機関研究として、西洋のブルジョワ革命、明治維新、辛亥革命の比較研究を行った。本書はその成果を収めたもの。全体で28篇の研究を含むが、そのうち中国関係のものは次の通り。

- ① 民本主義者と五・四運動(松尾尊兌)
- ② 辛亥革命と華僑(北山康夫)
- ③ 辛亥革命と産業構造(北村敬直)
- ④ 義和団時期における勤王と革命(小野川秀美)
- ⑤ 陳天華『警世鐘』と鄒容『革命軍』——解説と翻訳(島田虔次)

孫文の研究 藤井昇三著

——とくに民族主義理論の発展を中心として

勁草書房 1966 A 5 293+9p.

孫文の日本観の転換を基軸として、彼の民族主義理論の発展過程を究明したもの。①第一次世界大戦までの孫文と日本、②1919年の南北和平会議と孫文の民族主義の転換、③転換後における孫文の民族主義の展開、④1924年の孫文の訪日と大アジア主義講演、の4章からなる。末尾に参考文献が附録される。

毛沢東 ——その詩と人生——

武田泰淳・竹内実共著

文芸春秋新社 1965 B 5 465+9p.

毛沢東の書いた詩と詞とを選択、翻訳して、訳注をつけ、各詩詞の間を歴史的な説明でつないで、毛沢東の詩と人生とがわかるようにしたもの。①序論、②長沙における毛沢東、③長沙から武漢へ、④農村根拠地の創設、⑤瑞金を中心に、⑥長征、⑦延安で、⑧新国家の建設、⑨内と外の危機、⑩中ソ対立を超えて、の10章から成る。巻末(407頁以下)に年表および参考文献が附録されている。

毛沢東と整風 朝日新聞調査研究室編

朝日新聞社 1966 B 5 281p.

- ①東風と黒い旋風、②整風の目と二つの社説、③粛清



と人脈、④文芸整風の背景、の4章から成る。①では、いま中国全土をゆるがしているプロレタリア文化大革命を概観し、②は、呉晗・鄧拓・田漢らを批判した論説7編と、文化革命に関する解放軍報および紅旗の社説2編とを紹介し、③は今日にいたるまでの肅清の歴史をあとづけて、その人的関係を眺める。巻末に中国整風運動関係年表を附録する。

中国の法と政治——中国法の歴史・現状と理論

福島正夫著

日本評論社 1966 A 5 232+6 p.

中華人民共和国の法に関する研究。「中国の法と政治」という題名がつけられたのは、中国法の政治との不可分性を根本的な観点として、本書が書かれているからである。①中国における法の考え方と法の歴史、②革命根拠地の法の形成と発展、③中華人民共和国の成立期における政治と法、④社会主義の本格的建設と憲法的国家機構の完成、⑤社会主義建設総路線後の政治と法の展開、⑥法の体系、形態と法の創造、⑦二種の矛盾と法的作用、⑧法の順守と法の死滅、の8章から成る。①は序説、②～⑤では時代に分けて中国法を詳述し、⑥～⑧でその本質を論ずる。巻末に中国法令政策索引を附録する。

現代中国経済入門——江副敏生著

有斐閣 1964 B 6 210+8 p.

中国の問題にはじめて接する人々に、できるだけ平易に、現代中国の経済を説明しようとしたもの。①戦後の世界経済の変化と新中国の経済、②中国革命の理論、③新中国の成立と社会主義社会建設の基本方針、④新中国における経済の発展、⑤新中国の経済構造——五つのウクライドを中心に、⑥中国における社会主義革命と社会主義建設の特質、の6章からなり、最後を「中国経済の回顧と展望」でむすんでいる。

新中国の経済制度——宮下忠雄著

有斐閣 1964 A 5 300+16p.

中国共産党による中国社会主義革命の進展にともない、中華人民共和国の経済制度がいかなる変化をきたし、さらに、その変化との関連において、中国の経済政策の基調がいかなる発展をとげてきたかを、理論的に、実証的に、かつ発展史的に考察したもの。①新中国の経済制度、②社会主義建設の理論、③社会主義工業化と社会主義改造、④人民公社の性格分析、⑤農村人民公社の所有制、⑥国営農場の発展とその問題、の6章から成る。

中国の社会主義企業——儀我壯一郎著

ミネルヴァ書房 1965 A 5 300+6 p.

中華人民共和国における社会主義企業の形成発展過程の特質を、企業形態論の視角から、系統的に考察したもの。序章：解放区における社会主義企業の先駆的諸形態、のほか、①農業生産協同組合と農村人民公社の考察、②国家資本主義企業と社会主義国営企業の考察、の2部から成る。

中国の国民生活

山下竜三・儀我壯一郎・梅川勉共著

法律文化社(市民教室) 1965 B 5 203p.

中国の現在の国民生活をわかりやすく説明したもの。①中国の社会主義建設、②労働者の生活と国営企業、③農民の生活と農村人民公社、の3章から成る。

日中友好運動の歴史——日本中国友好協会16年の歩み

日中友好協会編

日本中国友好協会 1966 新書版 157p.

①日中友好協会創立のころ、②交流のひろがりから中断まで、③危機打開から第十五大会まで、の3章から成る。終り(67頁以下)に資料として、日中関係史年表、日中両国民間人の往来数、歴年日中貿易額、日中友好協会年次別会員数、国連における中国代表権問題討議の推移、中国日本友好協会役員名簿を掲げるほか、1950年以降の日中関係に関する協定、声明、原則など25篇が附録されている。

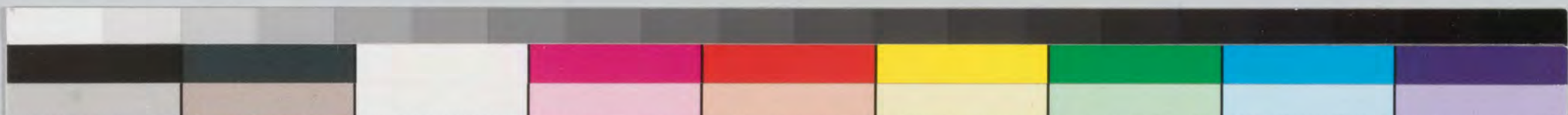
対満蒙政策史の一面——日露戦後より大正期にいたる

栗原健 編著

原書房(明治百年史叢書) 1966 A 5 378p.

既に発表されたことのある次の9論文を収める。

- ① 日露戦後における満州善後措置問題と萩原初代奉天総領事(栗原健)
- ② 関東都督府問題提要——特に官制上よりみた都督の在満領事指揮監督問題(栗原健)
- ③ 日露戦後における第一次西園寺内閣の対満政策と清国(馬場明)
- ④ 阿部外務省政務局長暗殺事件と対中国(満蒙)問題(栗原健)
- ⑤ 南満東蒙条約の成立前後(白井勝美)
- ⑥ 第一次・第二次満蒙独立運動と小池外務省政務局長の辞職(栗原健)
- ⑦ 第一次奉直戦争と日本(池井優)
- ⑧ 第二次奉直戦争と日本(池井優)
- ⑨ 『原敬日記』最後のメモ——原敬・董頭光会談





(栗原健)

巻末(239頁以下)に、関東都督府関係、辛亥革命関係、満州及び支那各地に於ける外交方針拝格の実例、二十一箇条問題関係、郭家店事件事略、第二次満蒙挙事関係の軍側資料(防衛庁戦史室所蔵)が附録されている。

満鉄 ——日本帝国主義と中国——

安藤彦太郎編

お茶の水書房 1965 B 5 279+15p.

早稲田大学政経学部の安藤彦太郎研究室を本拠とする満鉄史研究グループの、1958年以来の研究成果をまとめたもの。①日露戦争と満鉄、②「満州」(満鉄王国、満鉄コンツェルン、張作霖軍閥)、③「満州事変」と満鉄、の3部から成る。巻末に満鉄年表を附録する。

関東軍 ——在満陸軍の独走—— 島田俊彦著

中公新書81 1965 191p.

防衛庁戦史室や外務省の資料にもとづいて、関東軍の歴史的指標と認められる大事件を中心に、関東軍の歴史と独走の実態を実証的に描き出そうとしたもの。①生いたちと性格、②張作霖爆死事件、③満州の演出者たち、④ノモンハンの敗北、⑤七十万軍隊の終焉、の5章から成る。

大アジア主義と頭山満 葦津珍彦著

日本教文社 1965 B 6 212p.

既に公刊されている資料、研究によって、大アジア主義者としての頭山満をえがく。

現代中国と中ソ関係(アジア・アフリカ講座2)

勁草書房 1965 A 5 255p.

1963年に開かれた中国研究所、アジア・アフリカ研究所、日本朝鮮研究所の合同講座の内容を基礎とし、それに加筆・補充したもの。次の6篇を収める。

- ① 中国革命がアジア・アフリカに及ぼした影響(平野義太郎)
- ② 世界平和と中国の立場(岩村三千夫)
- ③ 「中ソ論争」と中国像——マスコミは論争をめぐって中国をどう描いたか(光岡玄)
- ④ 国際経済協力と中国(米沢秀夫)
- ⑤ 戦前の中ソ関係——1917~1937(新島淳良)
- ⑥ 新中国成立後の中ソ関係(岩村三千夫)

米中関係のイメージ 入江昭著

日本国際問題研究所(国際問題シリーズ46)

1965 新書版 218p.

100年を越すアメリカと中国との関係を、イメージという角度からまとめてみたもの。①米中関係の歴史的背景、②米中反日対制の変転、③敵対期の米中、の3章から成る。

延安整風運動資料 ——延安解放日報「文芸」目録

新島淳良編

早稲田大学社会科学研究所 1966 ガリ版 104p.

延安で発行された『解放日報』1941年5月から43年10月までに掲載されている文芸関係の作品、論文、記事の目録。次の4部から成る。①1941年5月16日より同年末までの文芸関係目録、②「文芸」欄のできた1941年9月16日より42年3月30日に至る「文芸」欄の総目録、③「文芸」欄のなくなった1942年4月1日より43年10月31日に至る文化、教育、文芸関係の記事、作品の目録、④1942年6月1日より43年1月16日に至る「学習」欄の総目録。末尾に著者索引がある。

光明日報掲載中国歴史学関係論文目録 1962.4~1965.1

ガリ版 B 5 18p.

1962年4月1日から1965年1月31日にいたる間に、『光明日報』に掲載された歴史学関係の論文題目を、月、日をおって排列したものである。日本中国友好協会京都府連合会京都大学支部東洋史班の作成。

魯迅年譜 中川 俊編

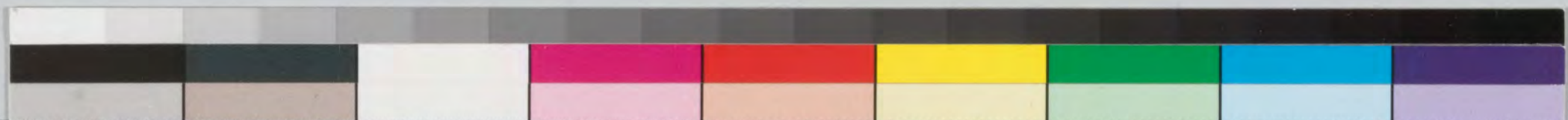
大安 1966 B 6 57p.

魯迅の著作年譜=作品年表ともいべきもの。それに普通の年譜にみられるような事項が簡単に附加されている。もと大阪外国語大学の学報(1965)に載ったもので、これはそのリプリント版。

アジアの歴史と思想 野原四郎著

弘文堂(フロンティアライブラリー) 1966 B 6 245p.

既に発表された①五四運動、②中国史、③イスラムに関する12の論文を集める。①には、五四運動とは何か、胡適と儒教、五四運動と知識人、中国におけるヒューマニズムの伝統、アナキストと五四運動、民本主義者の孫文像、五四運動と日本人(付五四時代年表)、②には、支那の歴史家、一人の近代支那史家、中国での歴史学の発達、内藤湖南『支那論』批判、③には、回教研究の役割、アラビア系諸国における回教徒民族運動、近代回教改革思想、メナンカバウの慣習、回教圏研究所の思い出、の論文を含む。巻末にはこれら論文の解題あり、同時にここで旧論文にたいする補説がされている。



10

2

3

4

5

6

7

8

9

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

30

1

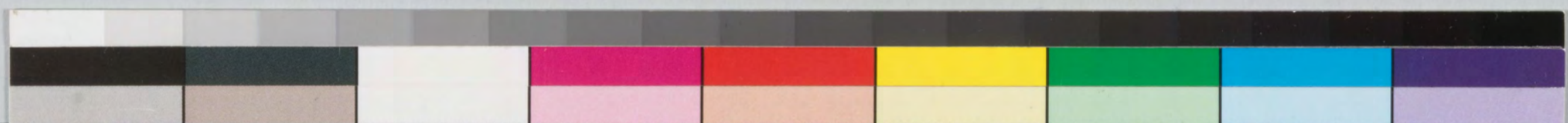


## センター出版物目録

- 東洋文庫近代中国研究室邦文図書目録 204頁 B5  
東洋文庫近代中国研究室に別置されている邦文図書の目録。1962年12月末日現在、3810部の蔵書が、著者および書名別に配列されている。
- 東洋文庫近代中国研究室邦文図書目録 2 165頁 B5  
上記の続編で、1963年1月より1965年3月末日までに受け入れた図書を収録している。
- 東洋文庫近代中国研究室中文図書目録 207頁 B5  
東洋文庫近代中国研究室に別置されている中文図書の目録。1963年12月末日現在4607部の蔵書が収録されている。
- 東洋文庫近代中国研究室中文図書目録 2 78頁 B5  
上記の続編で、1964年1月より1965年3月末日までに受け入れた図書を収録している。
- 東洋文庫近代中国研究室欧文図書目録 2 44頁 B5  
東洋文庫近代中国研究室に別置されている欧文図書の著者目録。1962年4月から1965年3月までの間に受け入れた図書が収録されている。
- 近代中国研究 第5輯 341頁 A5  
20世紀初頭における蘇州近傍の一租界とその小作制度 村松 祐次  
咸豊二年鄞県の抗糧暴動 佐々木正哉  
中国文雑誌論説記事目録(時務報)
- 近代中国研究 第6輯 359頁 A5  
清末民初の江南における包攬関係の実態とその決算報告 村松 祐次  
第一次国共合作期における内蒙古民族運動 坂本 是忠  
5・30事件と在華紡 中村 隆英  
武漢政府の崩壊過程 栗山 喜博  
中国文雑誌論説記事目録(商務官報)
- 中国関係日本文雑誌論説記事目録 1 240頁 B5  
「外事警察報」「北京週報」「燕塵」の3誌の論説記事目録。
- 中国関係日本文雑誌論説記事目録 2 227頁 B5  
「支那時報」「東亜」「情報」「調査月報」「特調班月報」の5誌の論説記事目録。
- 近代中国研究センター彙報 3 32頁 B5  
江西ソヴェト関係資料目録  
新刊案内  
「咸豊四年広東天地会の叛乱」補 佐々木正哉  
センター・ニュース
- 近代中国研究センター彙報 4 32頁 B5  
太平天国史研究論文目録  
日本人の新中国旅行記  
センター・ニュース  
新刊紹介
- 近代中国研究センター彙報 5 32頁 B5  
アメリカで見た軍閥に関する若干の伝記について 波多野善大  
『中国共産党五年来之政治主張』について 市古 宙三  
新刊紹介  
新収図書目録(マイクロ・フィルム)
- 近代中国研究センター彙報 6 32頁 B5  
中国農村人民公社管見 宮下 忠雄  
モスクワとレニングラードの図書館管見 吉田 金一  
中国史学史学会に出席して 衛藤 藩吉  
近刊辛亥革命史料紹介 市古 宙三  
センター・ニュース
- 近代中国研究センター彙報 7 32頁 B5  
解放日報社論目録  
ヤン・ミュルダール「中国のある村からの報告」 村松 祐次  
支那に於ける共産主義運動団体と主要人物  
中国済難会の正体と其の活動









近代中国研究センター彙報 No. 8

1966年 9月25日発行

編集発行 近代中国研究センター

東京都文京区本駒込 2丁目28番21号東洋文庫

